

令和6年度第1回四街道市みんなで地域づくり推進委員会 次第

日時：令和6年8月2日（金）

10時30分～

会場：四街道市役所5階 第1会議室

- 1 委嘱状交付
- 2 地域共創部長あいさつ
- 3 開 会
- 4 委員長あいさつ
- 5 副委員長の指名
- 6 副委員長あいさつ
- 7 会議の公開・非公開
- 8 議 題
 - (1) 令和5年度みんなで地域づくり事業提案制度の事業ふりかえりについて
 - (2) その他
- 9 閉 会

令和5年度みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）事業一覧

	団体名 (代表者氏名)	事業名	事業概要	新規 継続		事業 部門		申請額 (総事業額)	決算額	担当課
				新	継	地	19			
1	ちよこっとクラブ (松浦 由紀子)	ウィズコロナ時代の地域交流サロン「オープンカフェ」	ウィズコロナ時代に向け、コロナ対策を考えた地域高齢者サロンとしてオープンカフェを開催。屋外等に分散しティータイムを楽しみ、地域住民がコロナ以前のように気軽に集い、憩える場所を提供する。		②	○		400,000 (618,000)	400,000	高齢者支援課 健康増進課
2	よつかいどう学生服リユース (千脇 みゆき)	よつかいどう学生服リユース	市内小学校及び中学校の学生服、ジャージ、体操服、学用品又は子ども服のリユース品の販売や譲渡。卒業により不用になる物品の廃棄物削減。コロナ禍で経済的困窮を深める貧困世帯やひとり親家庭への支援。	○		○		500,000 (1,330,000)	500,000	社会福祉課 廃棄物対策課
3	笑うベスマホ庵 (石黒 敏夫)	スマホでハッピーライフ	デジタルデバイド解消のためスマホ教育が必要な高齢者に対し相互に易しく学べる環境を設ける。また、継続したスマホ教育により、参加者から講師を養成し、市内各地域に派遣できるよう育成し、IT化社会で市民がハッピーライフをおくれる社会を実現する。	○		○		500,000 (712,712)	488,000	情報推進課 社会福祉課 高齢者支援課
計								1,400,000	1,388,000	

【新規・継続】新…新規事業、継…継続事業（○数字は本制度への申請回数） / 【事業部門】地…地域づくり部門、19…アンダー19部門

コメントシート

委員氏名：

	団体名	コメント
1	ちょこっとクラブ	
2	よつかいどう学生服リユース	
3	笑うベスマホ庵	

事業報告書類

ちょこっとクラブ

コラボ四街道まとめ

団体名	ちょこっとクラブ
事業名	ウィズコロナ時代の地域交流サロン「オープンカフェ」

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	高齢者支援課 健康増進課

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <p>○地域交流サロン「オープンカフェ」</p> <p>①毎月1回コーヒー豆の種類を決めてバリスタがコーヒーを提供する内容で計画、実際には備品の購入、スタッフの研修、近隣への広報をした後での実施となり7月から予約を受け付けた。</p> <p>②コーヒーバリスタの若林氏からコーヒーを提供するためのノウハウを学び、バリスタの補助ができる体制を整えた。</p> <p>③ウイルス感染を避けるために駐車場に、予約に応じて8人から10人が座れるようにテーブル、椅子、パラソルをセットして屋外でコーヒー&ケーキを楽しんでもらった。</p> <p>④屋外用のテーブル、椅子、パラソルなどを収納するための物置は、予備の椅子も収納できる容量のものを購入した。</p> <p>⑤菓子・ケーキ等を提供するために品質を保ち食中毒の防止として容量の大きい冷蔵庫を購入した、コーヒーを飲む前には水を飲んでもらうようバリスタから支持があったためコップ、水を冷やすことにも役立った、</p> <p>⑥コーヒーと菓子等のセット、コーヒーのお代わりができる内容で食品の無駄をなくすため予約制とし、費用はひとり500円で実施したが、小麦粉、乳製品の高騰により予定価格のケーキが買えなくなったがほぼ500円で納めることができた。</p> <p>⑦カフェルームに網戸が入り、コロナ対策として換気のために開放した窓からの虫等の侵入を防いで環境衛生を保てた。</p>
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p> <p>① 手すりの設置</p> <p>玄関、階段の上がり降りの際に手摺りが必要な人が来られている現状と、近い将来必要とされる方が増えることを踏まえて手すりを購入する予定だったが、コラボ事業団体「ぬくもりの家」から活動中</p>

	<p>止に伴い、玄関、階段に取り付けられる手すりを譲って頂けたので購入はしなかった。</p> <p>② 毎月一回のオープンを予定していたが、8月の猛暑時は屋外での飲食は健康上危険と判断して中止にした。計画時点では20名程度の予約が可能と思われたが、雨天、風、気温などの状況によっては室内のみの利用になることを考慮して現在では14名程度の予約にとどめている。</p>			
事業費総額	予算	618,000 円	決算	588,159 円
補助金額	予算	400,000 円	決算	400,000 円

事業成果	<p>事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載</p> <p>月に1回でも感染対策をした「オープンカフェ」に来ることで安心してお喋りを楽しみ、コーヒーの香りに心も癒されるひと時を過ごしてもらうために7月からオープンしたが、毎回予約が入り地域に認知されつつある。現在は6年度6月の予約を受け付けている。</p> <p>スタッフのおもてなしも板につき、バリスタから毎月変わるコーヒー豆の特徴をお客様に伝え香りや味の違いなど楽しんで飲んでいる。</p> <p>・6月 15名（スタッフ研修） ・7月 21名（近隣招待） ・8月は猛暑日のため中止 ・9月 20名 ・10月 16名 ・11月 15名 ・12月年末のため中止 ・1月 14名 ・2月 14名 ・3月 12名 予約 ・4月 15名 ・5月 14名</p> <p>計画時点では20名を想定していたが、天候によっては室内のみになることもあるので、予約を3週間前から調整して。混乱をきたさないようコントロールした。</p> <p>月ごとに代わるコーヒー豆を楽しみに毎回予約して帰られるご夫婦、2回以上来てくれるグループなどリピーターが複数できてきた。</p> <p>バリスタの熱のこもったコーヒーの話や淹れ方のレクチャーを楽しまれ、2杯、3杯とお代わりしながら新たな出会いと繋がりを楽しんでいる。今後も赤道直下のコーヒー産地世界一周制覇を目指して月1回の「オープンカフェ」を継続していく。</p> <p>コロナが感染症第5類指定され、室内での飲食に不安が減ってはきたが、屋外のオープンなスペースとカフェテーブルでのコーヒーを希望する方が多いことは嬉しいことだ。</p>
事業の課題、担当	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。

課との関わり等	<p>ケーキ類の値上がりが続き、予算内での購入が厳しくなってきた。これからはケーキにかぎらず代替りのものを用意していく。</p> <p>6月から10月までの間にスタッフ全員が関わり、慣れない接客作業で幾つ問題点が見いだされ、その都度話し合って改善できたことで作業導線がスムーズになり負担を軽くすることができた。このことがお客様にも落ち着いた雰囲気でお出ししてゆっくりと寛いでいただけることにつながったと思う。</p> <p>オープンカフェは屋外セッティングの為、天候に左右されることから、希望される日にちに予約できないことが課題である。そのため暑さ対策の parasol 以外に、多少の雨や風でも安全にコーヒーが飲める環境対策を工夫することが必要だと考える。</p>
---------	---

今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p> <p>月1回のオープンカフェでは、広範囲にお知らせすることを控えていたが、運営に慣れてきたこと、始めにチラシを配布した範囲の方々にはある程度来ていただけたので、今年度はチラシを千代田自治会の協力を得て回覧して、より地域の方に気軽に来ていただけるよう広報活動をしていく。</p> <p>スタッフがドリップコーヒーの淹れ方をマスターしつつあることから将来的には月1回から「カフェサロン」設立当時に実施していた、週3回のオープンを目指す予定。但し金額、内容については未定である。</p>
---------	--

担当課のふりかえり	<p>高齢者支援課、健康増進課</p> <p>・高齢者の介護予防において、楽しみながら地域交流や社会参加を継続していくことは重要であり、「オープンカフェ」は、住民の交流の場や居場所づくりの機会となる事業として評価します。今後も地域の中で協力し、孤立しがちな人の居場所づくりになるよう取り組んでいただきたいと思います。</p>
-----------	--

みんな地域づくり推進委員会のコメント	
--------------------	--

※その他アンケート等がある場合は別途添付してください

[写真添付

事業報告書類

よつかいどう学生服リユース

コラボ四街道まとめ

団体名	よつかいどう学生服リユース
事業名	よつかいどう学生服リユース

事業部門	地域づくり部門
担当課・関係課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉課（公民館回収の関係で社会教育課） ・ 子育て支援課 ・ 廃棄物対策課 ・ 青少年育成センター「こども 110 番の家」に登録

事業内容	<p>事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 回収した学生服を必要に応じて、刺繍された名前をほどく、ジャージや体操服の名札を剥がす、ボタンやホックなどの補修、クリーニングによる製品の維持、などの作業を行う。また、リユース品は回収前のお子さんのサイズに合わせてあることから、サイズ調整などの要望もあるため裾上げなどの縫製作業を行う。 ・ 補修や縫製作業はひみつのおしゃれ工房さんと連携を行う予定ですが、ミシンやロックミシンを購入し、緊急な場合は店舗でも対応できるようにします。 <p>※お直しにより、商品の一時的な預かりが発生するため、氏名や電話番号の情報を頂く場合がありますが、他の活動に情報を利用することはありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市内の小中学校は 17 校あるため、お客様がわかりやすいように、学校、サイズなどの仕分けをし、ラベルライターを使ったわかりやすい POP づくりを行う。 ・ 拠点（下志津新田 2518）を持ち定期的な開催をする。 現在は週 2 回、午後 4 時間程度オープン。 四街道小学校と四街道西中学校に近く、通学路でもあるため多くの児童生徒が通る場所である。 ・ 上記手間と拠点の使用料から運営を継続するための資金として回収品を安価で販売する。 ※学生服販売の際は、必要とするお子さんに必ず来店いただき採寸を行う事で、転売等目的の個人や業者に販売することないようにする。このことはチラシにも記載しています。 ・ 来店者の安全のため、店舗入口の階段の補強を行い、試着室（フィッティングルーム）は現在手作りのため既製品を購入する。 ・ 広報活動として、チラシを作成・配布するほか、ポスターやのぼり旗によるわかりやすい表示、地域で行われているマルシェなどのイベントに出店する。 その際に、テント・ウォータータンク（テント横転防止用）、回収 BOX（キャスター付きフレーム）や折りたたみテーブル・椅子が必要です。 ・ 関係機関や学校等と連携し、生活困窮家庭等の子どもたちに必要な学生服等の提供などの支援を行う。 <p>◆くらしサポートセンター「みらい」</p>
------	--

	<p>みらいの紹介で5組が来店、内3組に学生服15,950円分、子ども服は必要なだけの無償支援を行った。</p> <p>◆社会福祉協議会 R5年3月1日から4月9日まで総合福祉センターで初めての回収活動 R5年11月21日 第41回四街道市社会福祉大会 体験発表 R5年11月8日から12月20日まで総合福祉センターで回収活動</p> <p>◆四街道高校 R5年6月1日から6月16日まで回収活動 学校での回収数は少なかったが公民館に持参した方もいた R6年2月14日 令和6年度入学者説明会で入学予定者にチラシ配布</p> <p>◆地域振興財団 R5年6月1日から6月30日まで市内3公民館と鹿放ヶ丘ふれあいセンターで回収活動 R6年3月10日から市内3公民館と鹿放ヶ丘ふれあいセンターで回収中4月30日まで</p> <p>◆子育て支援課 2月1日 生活困窮者の支援だけでなく、子育て世代の経済的負担を軽減する観点から視察</p> <p>◆廃棄物対策課 リユース品情報コーナーにお問い合わせがあった場合、当店を紹介</p> <p>◆青少年育成センター 四街道小学校と四街道西中学校に近く、通学路でもあるため多くの児童生徒が通る場所であることから「こども110番の家」に登録</p> <p>◆蔵の図書館 子どもの居場所に蔵書の一部を設置 3ヶ月毎に入れ替え</p> <p>◆四街道市子ども会育成連合会 子ども商店街に子ども服を寄付 ハンガーラックなど商品陳列に必要な備品の貸し出しを行いました。</p>				
事業内容変更	<p>軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント出店は回収事業のみを行ったため、イベントの報償費と対象外の昼食代が発生しませんでした。また、刺繍を外すなどの作業工賃を報償費としました。 ・各広報紙の掲載協力によりチラシ作成回数を減らしました。 ・周知が広がり予想以上に回収品が増えたため、消耗品のハンガーやラック、保管用のBOXを予定以上に購入しました。 ・市民からの要望に対応するため、四街道市から通学できる高校の学生服販売に向け学生服などの回収を開始しました。 ・ひみつのおしゃれ工房と連携し子ども服を取り扱っていましたが、ひみつのおしゃれ工房が大人の古着販売を終了したことから、当店で委託販売を始めました。 ・クレジットやPayPayなどの決済方法を導入したため手数料が大きく増えました。 				
事業費総額	<table border="1"> <tr> <td>予算</td> <td>1,330,000円</td> <td>決算</td> <td>1,051,800円</td> </tr> </table>	予算	1,330,000円	決算	1,051,800円
予算	1,330,000円	決算	1,051,800円		
補助金額	<table border="1"> <tr> <td>予算</td> <td>500,000円</td> <td>決算</td> <td>500,000円</td> </tr> </table>	予算	500,000円	決算	500,000円
予算	500,000円	決算	500,000円		

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載
-------------	-------------------------------

開催日時：月曜日・木曜日 13:00～17:00
 合計 85 日開催 購入 186 組 473 点 無償提供 6 組 (ランドセルのみ含む)
 他に大きなテーブル、ユニバーサル農業フェスタ、どんぐりの森まつりに出店

- ・子ども服の回収や販売はりんごの樹と協力しあっていますが、顧客傾向が異なるとわかり、(りんごの樹は乳幼児から小学校低学年まで) 子ども服の販売を事業仕分けしたことで、お互いの事業周知が広がった。
- ・くらしサポートセンター「みらい」
 年間パスポートのような期限付のサポートカードを作成し、期間内はいつ来ても支援できるような仕組みを作りました。発行カード 3 枚
- ・社会福祉協議会
 R5 年 3 月 1 日から 4 月 9 日の回収 合計 230 点
 R5 年 11 月 8 日から 12 月 20 日の回収 合計 115 点
- ・四街道高校
 R5 年 6 月の回収から継続して、次年度も 5 月 1 日から 5 月 31 日まで回収予定
- ・地域振興財団
 R5 年 6 月 1 日から 6 月 30 日の回収 331 点
 R6 年 3 月 10 日から 4 月 30 日で回収中 3 月末までで約 250 点
- ・各広報紙掲載で周知が広がり、寄付される物品が増える他、市外からの購入者も来店するようになりました。
 STaD 126 号 掲載 6 月 1 日発行
 広報紙「みんなで 36 号」掲載 7 月 1 日発行 (みんなで地域づくりセンター)
 ちいき新聞 R5 年 10 月 13 日号掲載
 市政だより 令和 6 年 3 月 1 日号掲載
 わ・わ・わ 第 16 号掲載 令和 6 年 3 月発行 (男女共同参画フォーラム実行委員会)
- ・八街市市民活動サポートセンター Pit から視察
 八街市でもリユース事業を始めたい事業者とそれをサポートする市民団体のみなさんが視察で来店。他市にも広がりを見せている。
- ・社会福祉協議会や公民館といった公共機関での回収がとても効果的で寄付回収品は 1,000 点を超えました。また、継続的な回収活動の協力を頂いています。
- ・店舗に足を運んでくださる方は、寄付する方も、購入する方もこの場があることに感謝の言葉を下さいます。下取り買い取りはしていませんが、これだけの物品が集まることは地域のみなさんが必要としてくださっている場だと改めて実感しています。

事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会や公民館での回収は信用度が高く、土日や夜にも持参できるため、回収品の数が予想以上でした。 ・子育て支援課が子育て世代の経済的負担を軽減する観点から視察に来ました。 ・広報活動で周知は広がりましたが、購入者は予想より低かったです。生活困窮者への支援というイメージが大きくなっている可能性もあるため、子育て世代の負担軽減の面からも利用してもらえるようにする必要があります。 ・店舗の位置がわかりづらいようで、道に迷う方や店舗場所の問い合わせが多いため、場所がわかりやすい周知が必要。 ・共働き家庭が増えていることから平日営業だけでは来られない方も多い。土日に営
------------------------	--

	<p>業できる体制もつくる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・販売対応が1人のため、繁忙期には人手が足りない。また、寄付回収品がふえているため、洗濯や修繕作業をする人ももっと必要。
--	--

今後の事業展開	<p>成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・販売対応や洗濯や修繕作業をする会員を増やす。 ・高校の制服販売を開始する。 ・四街道高校とは回収事業を継続できるようになったので、市内の他の高校でもできるようにしていく。 ・保護者が買い物中に小さな子どもの居場所として蔵の図書館の本を置いているが、放課後の子どもたちの居場所としてももっと活用してもらえるようにする。 ・生活困窮家庭への支援としては、生活保護世帯の児童生徒への支援にも広げていけるようにする。しかし、子育て世代の負担軽減にも繋げるように子育て支援課とも相談して活動に取り入れたい。

担当課のふりかえり	<p>社会福祉課、子育て支援課、廃棄物対策課</p>
	<p>卒業して使わなくなった制服やランドセルを補修し、次に必要とする人へつなぐことのできる本事業は、資源の有効活用という観点からも有益な事業です。</p> <p>本事業を通して、生活困窮者等の支援をすることができました。引き続き窓口等において支援を必要とする家庭に対して周知をしていきます。</p>

みんなで地域づくり推進委員会のコメント	
----------------------------	--

事業報告書類

笑うベスマホ庵

コラボ四街道まとめ

団体名	笑うベスマホ庵
事業名	スマホでハッピーライフ

事業部門	地域づくり 部門
担当課・関係課	デジタル推進課、社会福祉課、高齢者支援課

事業内容	事業の詳細な内容（実施日、参加者数、会場、スケジュール等）や市、関係機関との役割分担や関わり等について記載。資料が多い場合は別途添付。			
	国策であるデジタル活用共生社会実現を目指し、高齢者にも易しい教育環境を市補助金で整備し大規模スマホ教育を実施した。（添付資料）			
事業内容変更	軽微なものを除き、当初予定していた事業の内容に変更があった場合は、その内容と理由を記載			
	若者との世代間交流での高齢者スマホ学習への支援を模索したが、若者の応募が得られず未達となった。若者に経済・時間的余力がなく、我々の発信力・コネ不足等で近隣大学を通じての協力も得るには至らなかった。			
事業費総額	予算	712,712 円	決算	661,124 円
補助金額	予算	500,000 円	決算	488,000 円

事業成果	事業実施した結果、得られた成果や効果を、数字等を交えて記載		
	<p>継続した実践型、視認性の良い映像投射型教育、外部講師、CATV296・ソフトバンク・ドコモ等からの専門家派遣を得て、大規模スマホ教育を10ヶ月間4～6コマ/月実施できた。以前より恵まれた教育環境のもと、スマホ基本操作の学習を終えた17名が3月末で卒業した。市政だよりにスペースを割いて頂き指導者募集を実施し、1名の応募があり、初心者指導に加わって頂いている。PR関係では笑うベスマホ庵活動をCATV296でテレビ放映して頂いた他、来年度参加者募集チラシを四街道公民館、わろうべの里に掲示、更に参加者口コミで迎え入れる計画である。活動詳細は添付資料を参照ください。</p>		
事業の課題、担当課との関わり等	事業全体を通して、改善点や今後の課題、担当課との関わり等について記載。		
	<p>平均年齢77歳の参加者が安全に通える時間帯に大規模教育できる広い会場確保がわろうべの里では3コマ/月に制限あり。 四街道市総合福祉センター 老人福祉センターでは予約自体を断られた。 国県市のデジタル共生社会実現のトップダウン的意気込みを期待したい。 目標はスマホ学習専用施設の確保と市による管理運営。</p>		

今後の事業展開	成果や課題等を踏まえた今後の事業展開について記載		
	<p>来年度は、スマホを毎日使う習慣化、探求型学習を目指して講師にコーチングを依頼する方向で活動を展開する予定。 この新たな取り組みは、親睦を深め、人間関係を築きながら相互扶助の精神で焦らず、小グループ活動も行い、着実に知識の定着化を図る計画である。 今年度協力頂いた業者による無料教室開催が全てお断りされ、来年度のコラボ申請もその新条件に該当せず来年の申請は見送った。 今後はフリーの立場で諸々の制約を回避し、ハッピーな活動を行う予定。</p>		

担当課のふりかえり	デジタル推進課、社会福祉課、高齢者支援課		
	<p>介護予防において、高齢者が自身の興味関心に応じて、交流を楽しみながら学ぶことは大切です。高齢者がスマートフォンの活用に関する知識を得ながら、交流を楽しむことができる、有意義な場になっていると考えます。</p>		

みんなで地域づ
くり推進委員会
のコメント

令和5年度 四街道市みんなで地域づくりセンター 業務報告

四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業

受託団体 特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

I. 施設利用状況

内容	年間		
来所者数（人）	2765	開館日（通常オープン日）	（日） 217
1日あたり来所者数（人）	12	休館日に主催事業等を実施した日	2
ミーティングスペース 利用団体（団体）	105	開館日数合計	219
ミーティングスペース 利用人数（人）	756	前年に比べ、来所者数、新着情報、相談件数などが増えている。 前年）オープン日221日、来所者数2,379人、新着情報379件、相談件数延べ89件	
新着情報（件）	453		
相談件数（件）	99		

【コーディネーター会議】基本的には月2回開き、事業の企画、進捗、課題などについて協議し共有した。

4/14、4/25、5/12、5/23、6/9、6/27、7/14、7/25、8/24、9/8、9/27、10/17、11/10、11/28、12/5、12/19、1/23、1/30、2/6、2/27、3/19

II. 講座・企画事業の開催

1. 地域課題への取組みのプロデュースに関すること

(1) みんなで地域づくりセミナー

日時	内 容	参加人	場所	備考
6月6日	市民活動団体交流会 【目的】 既存の市民団体のコロナ禍での活動停滞を解消しステップアップするため、団体同士が交流し、他団体とのつながりをつくる。 【内容】 ・交流会に参加した市民活動団体（21団体）が各自活動内容等を紹介し、問題点等の情報交換を実施した。 ・事例発表Y・Y・NOWSON 中高生のフリースペース「ぷらっと」 【成果・課題】 ・各団体の活動紹介を行い、顔を合わせて情報交換でき有意義な時間となった。団体の課題が話されその後のコーディネートにつながった。	27	文化センター201	
6月30日	市民活動ボランティア体験説明会 事例 よつかいどう学生服リユース／受け入れ団体紹介	2	センター	
9月16日	コラボ四街道申請サポート <キックオフイベント> ファンドレイジング講座「思いを伝え、共感と資金を集めよう」 講師 徳永洋子さん（ファンドレイジング・ラボ代表） 【目的】 自分の団体の活動について振り返りを行い、言語化し、他者にわかりやすく伝えることで、資金や共感を得て、活性化する団体を増やす。 【内容】 1.ファンドレイジングとは 2.寄付集めのポイント 3.会員拡大のポイント 4.助成金活用のポイント 5.紙芝居形式でつくるショートスピーチ（ワーク） ※（センターから）コラボ四街道説明会のお知らせ 【参加者アンケートから】 ・アンケート回答20件 ・大変満足13、満足4、回答なし3 ・今後の活動づくりに大きなヒントになった、自分たちの活動を改めて見直すよい機会になった	20	文化センター203	14団体 市内外からの参加

9月28日	<p>コラボ四街道申請サポート STEP1～3</p> <p>【目的】 みんなで地域づくり事業提案制度(コラボ四街道)を活用して、地域づくりや地域課題の解決を図っていくための学びの場をつくる。</p> <p>STEP1 コラボ四街道制度を活用しよう</p> <p>【内容】 1. コラボ四街道制度の説明(政策推進課) ・コラボ四街道の概要・応募の説明・これまでの活用事例紹介 2. はじめの企画書を書いてみよう! 3. みんなに伝えてみよう!</p> <p>【成果・課題】 ・ガイドブックをもとに制度について詳しく説明を聞いて理解することができた。 ・「はじめの企画書」に①事業の目的・必要性 ②補助金を活用して行う事業の内容 ③実施後の成果などを書いて発表することで、思いを事業の形にすることができた。</p>	7	センター	<p>〔参加〕 ・四街道市民のためのバレイ実行委員会、「平和と文化のまち四街道」をめざすアオギリの会、よつかいどう不登校支援ネット</p>
10月12日	<p>STEP2 企画提案書・申請書作成のポイント</p> <p>【内容】 1. 「コラボ四街道」の申請書の書き方のポイントについて 2. 企画提案書を書いてみよう 3. 伝えてみよう! 4. 質疑応答 5. 次回の地域づくりセミナーについて</p> <p>【成果・課題】 コラボ四街道申請を考える人、今後のために学習する人が参加。企画提案書の書き方について詳しく説明と質疑応答により、学ぶことができた。</p>	7	センター	9/28に加えカルディア
随時相談 受付	<p>10/12 市民のためのバレイ 10/18, 10/25 10/18 よつかいどう福祉会 10/19 (音楽で地域貢献) 10/20 おむすびっこ食堂(子ども食堂) 10/25 産業振興課(市民2人) 10/26 ホ・オポノポノ(バランスボールで『心』と『身体』を整えよう)</p>		センター	10/15市政だより「コラボ四街道提案募集」
1月13日	<p>PowerPointを使ってプレゼン資料を作成しよう</p> <p>【目的】コラボ四街道申請団体でパワーポイントでのプレゼン初心者に向けて、作成の仕方の相談を受けアドバイスをする。</p> <p>【対象】コラボ四街道申請団体で、プレゼンが初めての方、PowerPointでの資料作成が初めての方</p> <p>【内容】 ・プレゼン資料作成の注意点、ポイントの説明 ・コラボ四街道申請団体より事例紹介 「よつかいどう学生服リユース」</p> <p>【成果・課題】 ・パワーポイントの作成の仕方について、理解が進んだ。 ・プレゼンのやり方について分からない人が多かったため、パワーポイントの前にプレゼンについて学ぶ時間が必要だった。 ・公開プレゼンの日の詳細について、申請団体から質問が多く出された。センターが把握しておくため市から事前に聞いておくことが必要だった。</p>	4	センター	<p>【事前配布資料】 ・コラボ四街道プレゼン発表用フォーマット例 ・プレゼン発表作成のヒント PowerPointの使い方</p>
1月25日	<p>STEP3 プレゼンをしてみよう</p> <p>【目的・内容】公開プレゼンテーションに向け、本番と同じ時間でプレゼンテーションをして、参加者同士アドバイスし合う</p> <p>【成果・課題】 ・1/13のパワーポイントのプレゼンの研修を経て内容は良くなり、本番の形で練習し参加者が質問をし合うことができた。 ・2月13日の公開プレゼンテーションでは、5団体とも時間内に内容を伝えることができ、セミナーの成果が見られた。</p>	8	センター	申請した5団体とも参加。
(2月13日)	公開プレゼンテーション			スタッフ6人傍聴

【成果・課題】

- ・コラボ四街道に、新規5団体が申請し3団体が採択された。
採択団体:社会福祉法人よつかいどう福祉会、おむすびっこ、よつかいどう不登校支援ネット
- ・連続した講座開催や市政だより掲載などにより、コラボ四街道申請の相談が増えた。
- ・次年度は、コラボ四街道についてより早い時期から知らせ、申請団体が早くから取り組めるようサポートしていくことが必要と考え、担当課とも話し合っ次年度の年間の計画を立てた。

・コラボ四街道 令和5年度実施事業支援

各団体の担当スタッフを決め、取材・相談などのサポートを行った。みんなで36号「自分たちで進める地域づくり」に3団体の取材記事を掲載した。(ちよこっとクラブ、よつかいどう学生服リユース、笑うベスマホ庵)

(2) 自治会情報交換会(第22回)

<p>7月7日 6/6大雨警報、高齢者等避難指示のため中止</p>	<p>事例報告 美しが丘スマホ塾 と情報交換 【目的】 ・新型コロナウイルス予防への制限が緩和されつつある中で、地域の高齢化や自治会の担い手不足などの従来からの課題や、新たに生じている課題等に改めて向き合い、解決するための情報交換を行う。 【内容】 ①事例報告の感想 ②若い人が自治会に参加するためには ③自慢大会(成功事例等、私の自治会の自慢) 【成果・課題】 ・SNS(ライン)等を活用した自治会の運営方法が勉強になる、自治会活性化の材料にしたいなどの声と、現状から困難は大きく、バックアップの体制が必要との声が上がった。 ・若い人が自治会に参加するには、会議の時短や、子どもとのつながりを考えることなどの意見が出された。 ・自治会は、災害時における地域住民の安全を確保する上で不可欠な存在であるなどの声が出された。センターとしては、自治会と一般の市民活動団体との関係も含めて、新しい視点で地域づくりを考える中で、自治会情報交換会のあり方についても再考して行きたい。</p>	<p>12</p>	<p>四街道市福祉センター会議室1</p>	<p>8月 報告書を核自治会に送付した。</p>
---------------------------------------	---	-----------	-----------------------	--------------------------

(3) 地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ関係機関と協力すること

- ・「支え合い100人情報交換会その⑤」 3月8日(金)文化センター301・302号室、オンライン併用 (協力)
- テーマ 自分のため誰かのために支え合い活動に参加しませんか？
- 内容 ・未来の作文コンクール市長賞朗読 (千代田中学3年生)
- ・支え合い活動実践者の発表 ①にこにこサービス ②シルバー人材センター ③チーム旭ヶ丘 (地縁組織の助けあい活動) ④クローバーデイサービス(地縁組織移送サービスに協力)
- 主催 地域包括支援センター 協力 医療法人まごころ、みんなで地域づくりセンター
- 参加 169人(会場79人、Zoom他) 内訳:住民55人、介護者20、福祉施設15、医療15、企業、4つの大学)
- 課題 たくさんの参加を支えあいの担い手づくりにどうつなげるか
- ※当日開催前「さくらそう」で発表者5人とボランティアの昼食・交流は、各機関利用者(ボランティア)の社会参加・体験の場となった(くらしサポートセンター「みらい」と相談支援「ひまわり」のボランティア、センター+愛国学園卒業生)

(4) アートを活かしたまちづくり (アートをとおして地域とつながる機会をつくります)

<p>7月8日 1回目</p>	<p>みんなでアート2023 ワークショップ「ふるさとまつりをみんなで彩ろう」 【目的】 アートを通して地域とつながる機会をつくる 【内容】 ふるさとまつりの会場で飾られる提灯にひとりひとり絵付けをするワークショップを行った。 提灯作成数①:27 【感想】 子どもと参加して楽しく楽しく作れ、このことを通して、地域に親しみが感じられた。</p>	<p>38</p>	<p>文化センター206</p>	<p>連携: 自治振興課</p>
<p>7月26日 2回目</p>	<p>講師:3人 提灯作成数②:27人 【感想】 家族で参加して楽しいワークショップだった。 作った提灯が飾られるので、家族でふるさとまつりに見に行きたい。</p>	<p>35</p>	<p>文化センター206</p>	<p>連携: 自治振興課</p>
	<p>・提灯作成(持ち帰り)③63 ①②③合計 117個 ・ふるさとまつりで飾り終えた提灯の回収作業、点検を行い、返却した</p>			

【成果・課題】申込みもすぐ定員になり、小さい子どもを連れた家族や友達との参加が多く、ふるさとまつりで飾られることを楽しみにする様子で、このことを通して地域に親しみを持つきっかけになるとと思われる。

2.地域づくりを担う主体のネットワークに関すること

(1)子ども支援ネットワーク

4月7日	子ども支援団体視察 TSUGAnoわ子ども食堂(千葉市若葉区) →「子どもの居場所」について田中照美さん講演会を企画(7月)			スタッフ3人
4月20日	子ども支援交流会 地域×子ども～何ができる？何がしたい？～ 【目的】 ・市内の子ども支援の団体の活動状況を知り、子ども支援に関心のある市民との関係を深めて、センターとして何ができるかを探る。 ・参加者にとっても、団体の活動を互いに知り、活動のモチベーションにつながり、協働を生み出す場になるような内容とする。 【内容】 ・各団体や個人からの活動の紹介 ・情報交換 【成果・課題】 ・「乳児を連れて親子で過ごせる場所」について話題にあがり、どんな場が必要か、どんな風に発信すれば必要な方に届くのか、リアルな声を聞くことができた。市民の声に対して知識や経験をシェアする有意義な会となった。 ・子ども支援の情報発信の活動について関心を持つ市民に出会えた。 ・不登校の親の会の人とも情報交換することができた。	8	文化センター 和室	スタッフ5人
7月5日	講演「子どもの居場所づくり」 TSUGAnoわの実践から TSUGAnoわ子ども食堂・子どもカフェ代表 田中照美さん 【目的】 TSUGAnoわでの「子どもの居場所づくり」について、直接お話を聞く機会を持ち、広く知ってもらうことで、子ども支援に関わる人や団体が増えることを目指す。 【内容】 ・講演会、質疑応答 【参加者アンケートから】 ・提出15 大変満足14, 満足1 ・実際に運営されている方々の話を伺えたことが本当にありがたいです。 ・子どもたちの安心安全な居場所を作るためには、運営する方々の人柄・意識がとても大切だと感じました。	25	文化センター 和室	6/15市政だより

【成果・課題 開催後の動き】

- ・講座参加者が関心を持ち、TUGAnoわへの訪問し、ボランティアとして参加した。
- ・昨年来の不登校についての講演会や情報交換を通して、親の会2団体を核として連携が図られ、よつかいどう不登校支援ネットが立ち上がり、講座参加者などが加わり活動を始めた。

12月7日	<p>地域食堂・子ども食堂交流会 【目的】 センターに、子ども食堂、大人も含めた地域食堂に関わる相談が複数寄せられたので、実践者とこれから始めようとする市民をつなげて交流する場を持つ。また、既に取り組む団体・個人をつなぐ場を設け、運営ノウハウや食材、人材、資金調達などについて情報交換を行なう。</p> <p>【内容】 10:30 オープニング(センター担当) 10:35 参加者(団体)の自己紹介(一団体2分程度) 11:00 活動事例紹介:みらい食堂 長谷川晃一さん 11:15 フリートーク(課題のシェア、意見交換など) 11:55 クロージング(センター担当) 終了後も自由に情報交換・交流</p> <p>【参加団体】 ①みらい食堂 ②中高生のフリースペース「ぷらっと」 ③Rakuまる ④みんなの食堂 ⑤モモちゃん食堂 ⑥りんごの樹 ⑦ほのぼのテーブル ⑧カルディア ⑨藤原小児科 ⑩おむすびっこ食堂 ⑪ゆかちゃんおかだ ⑫(大日 玄米寄付) ⑬地域包括支援センター ⑭四街道市社会福祉協議会 ⑮くらしサポートセンターみらい ⑯子育て支援課</p> <p>【参加者アンケート結果】 提出10名 ・とても満足8、満足1、回答なし1 ・次回があれば参加したい10 ・対象者をしぼらないということが勉強になった。長く続けていくことが必要だと思った。 ・交流会に参加し、自分ができることは何かを改めて考えられた。 ・毎日忙しくて、なかなか準備に時間がとれず焦る気持ちもあるが、着実にやっているという気持ちに改めてなった。 ・だれでも気軽に行ける地域食堂が増えて、誰もとりこぼされない社会の一步がつかれるよう活動を広めていきたいということが話された。</p>	23	文化センター 和室	政策推進課 2人 スタッフ4人 【取材】 ケーブル ネット296 地域新聞
-------	--	----	--------------	--

【成果・課題】

- ・交流会終了後に参加者が積極的に交流し、自由な時間で交流を深めてもらうことを重視していたので、交流会の目的はおおむね達成できた。
- ・食堂運営者だけでなく、社協や担当課の参加があり、様々な立場の方からの意見が聞くことができた。
- ・だれでも気軽に行ける地域食堂が増えて、誰もとりこぼされない社会の一步がつかれるよう活動を広めていきたいということが話された。

【交流会後の動き】

- ・政策推進課を通して、子育て支援課へアンケート結果の報告をして、課の今後の具体的な施策などを伺い、センターとの役割や連携について意見交換を行った。
- ・交流会をきっかけに、新たに2団体が、プレオープンなどをを行い実施に向け準備を始めた。
- ・おむすびっこ食堂(桜が丘会館 14:00-夕食提供は16:00-20:00)地区社協やボランティアスタッフが協力。4月からコラボ四街道の事業として本開催する。
- ・ふじわらっこ食堂(藤原小児科) 3月26日のプレオープンの振り返りを踏まえ、夏休み本開催に向け、6月に再度プレオープンの予定。企業からの食材提供も集まっている。

(2) 四街道みんなで災害支援ネットワーク

- ・LINEチャットを使った情報交換(ネットワークメンバー38人登録)
- ・Facebook、メールリストで情報発信を行った。
- ・「もしもの時の支援リスト」募集…昨年度、提出してもらったアンケートの内容を更新 提出9件

5月16日	<p>ボランティアセンターとの意見交換 ・災害ボランティアセンターについて…市内で大規模災害が発生した時、四街道市社会福祉協議会は、(市と協議して)災害ボランティアセンターを立上げ・運営する。役割は、被災地でのニーズの把握、ボランティア受け入れ・情報提供・調整、自治体との調整等。 ・みんなで地域づくりセンターでニーズを把握した時には、災害ボランティアセンターに連絡 ・災害支援ネットワークは、スキルや専門性を持ってできることを、特に災害ボランティアセンターが閉じられた後など、支援することが求められる。</p>		センター	ボランティアセンター4人 センター5人
-------	--	--	------	------------------------

6月4日	四街道市防災士連絡会との意見交換 ・防災士連絡会:2020年発足、会員17人、危機管理室との連携強化する。 (目的) 四街道市で活動する防災士が互いに協働し、市民防災の要となること。会員は互いに学びながら実力を高め合い、各自の居住地域や四街道市域における防災力向上のために活動する。 (活動内容) 自主防災組織が、活動の基点。避難所も在宅避難者もどちらの住民も守る必要があるということが防災士の担う重要な任務となる。 (センターに対して) 市民に災害を自分ゴトとして考えてもらう機会を作ってほしい。		センター	防災士会4人 センター4人
6月12日	ひかりが丘西サロン防災講座 【内容】 ・みんなで地域づくりセンター及び災害支援ネットワークの紹介 ・かるた取り ・災害時におけるスマートフォンの豆知識 ・災害支援ネットワークのメンバー(永吉洋子さん)による「100円ショップで備える防災バッグ」の情報提供 【実施結果】 参加したメンバーの日頃からの備えに対する意識を高める良い機会になった。	20		センター3人

・千葉県令和5年度 第2回 市民活動支援組織ネットワーク会議 ～「三者連携」の構築・強化」

10月20日 県と参加した市町(サテライト方式)で、講義のあと、ワークで各市町で「三者連携」について考える参加 四街道市から センター3人、政策推進課1人、危機管理室1人
 ※ボランティアセンターは欠席で時間も短かったので十分話し合えなかったので、今後、再度機会を設けたい。

12月1日	四街道市における 災害時の三者連携のための打合せ 【目的】 四街道市で災害があった時に、市、災害ボランティアセンターと、当センター（及びみんなで災害支援ネットワーク）が、それぞれどのような役割を持ち、どのように連携すればよいのかを具体的に話し合う機会を持つ。 【内容】 ・四街道みんなで災害支援ネットワークの目的、経緯について説明、共有 ・センターからの質問について、危機管理室、社会福祉課(社会福祉協議会)からの回答について共有。 ・(危機管理室より)避難所運営委員会は、現在5団体のみ設置(市内27カ所中)ないところは、どんどん立ち上げていただきたい。積極的にお手伝いをする。 【成果・課題】 ・センターの役割として、確かな支援リストをつくることが求められることが分かった。 ・実際に災害が起こった時、どのように動くのかを具体的に決めることが課題。 ・今後も、三者での話し合いを継続して行っていくことが必要である。		センター	出席: 危機管理室、 社会福祉課、 政策推進課(2人)、 センター(3人)
12月5日	四街道みんなで災害ネットワーク 令和5年度交流会 【目的】 ・災害支援ネットワークメンバーが顔を合わせる機会を持ち、センターは事務局を担い運営の主体はメンバーであることを伝え、運営をスムーズにする。 ・実際に起きた災害の事例から、災害支援において市民団体ができることを知る。 【内容】 ①担当事務局メンバー挨拶と今後の進め方について センターより ②「令和5年台風13号の被害状況と支援の取組み」「市民団体のネットワークができること」 災害支援ネットワークちば(CVOAD)事務局長 鍋嶋 洋子さん ③もしもの時の災害支援リストの説明、自己紹介と自団体ができること発表 【成果・課題】 ・初参加の自治会、消防団、盲学校の方と違った角度から課題を話すことができた。 ・災害支援において市民団体ができることを知る事ができた。 災害ボランティアセンターと行政による支援がカバーしきれないニーズの隙間を埋め連携して支援を行う。(より多くの人たちが災害支援に関わることで迅速・的確な支援を進める。情報、マンパワーの提供-(実態調査、土砂や廃棄物撤去、避難所運営支援、炊き出し、子どもの居場所づくり、物資の提供(物品、車両の提供)、食材の寄付など。	8	文化センター 202	出席: 国際交流協会、 マップ活用交流会、自治会 にこにこ文庫、消防団、 盲学校 企業(地域貢献担当)

<p>2月3日 (土) 10:00- 11:30</p> <p>終了後コ アメン バー打合 せ</p>	<p>四街道みんなで災害ネットワーク 令和5年度 第2回交流会 【目的】 ・第1回の目的に加え、コアメンバーを選出し運営を進めるために打合せを持つ。 【内容】 ①第1回交流会の報告 ②三者連携について ③能登半島地震発生から団体として何が必要だと思ったか ④今後のこのネットワークを進めていくために必要なこと ⑤コアメンバーの選出について 【成果・課題】 ・避難所の運営は誰がするのか、避難所と避難場所の違い、ペットの避難について、災害支援ネットワークの運営についてなど、質問・意見が出された。 ・コアメンバーを選出。コアメンバーを中心にネットワークを運営することを確認した。 ＜コアメンバー会議＞ ・コアメンバー：日本ペット飼育協会(2名)、朗読者の会やまびこ、食を通して四街道を元気にする会、国際交流協会、和良比小避難所運営委員会、ガールスカウト千葉若葉台62団、岩瀬薬品(株)、(株)ダイナム、里kara ・災害支援を行っていくうえでの疑問点などが話し合われた。 ・センターとネットワークはどのような立ち位置でやっていくのか。 ・コアメンバー間での連絡について(→LINEチャットを使う) ・支援協力要請時、各団体のだれに連絡するかを明確にしておく必要がある。 ・災害ボランティアの行動する時の保険は？ (保険は、災害ボランティアセンターを通して掛け、当日から対象。) ・三者連携の会議には、コアメンバーも参加することとした。</p>	<p>8</p>	<p>セン ター</p>	
<p>3月14日 10:30- 11:30</p>	<p>災害時における四街道市での三者連携のための打合せ 【目的】 災害時の三者の連絡の取り方や、交流会およびコアメンバー会議で出された疑問点について、話し合いを持つ 【内容】 災害が起きた時の三者の連絡体制について ・「ニーズ・支援の要請を災害ボランティアセンターに集約する」ことについて 三者連携はそれぞれ活動を補う。災害ボランティアセンターと連携を取りながら活動してほしい。報告は後でも可。危機管理室としては各避難所などから要望があればお願する(危機管理室) ・災害時のボランティア参加と保険について 『全社協の保険』団体の場合は参加する人の名簿をそろえて発災時に登録可能。 みんなで災害支援ネットワークとして登録ができる(社協) →災害時の保険について、および連携の仕方など参考になる事例などを調べる</p>		<p>セン ター</p>	<p>出席： 危機管理室 1、社会福祉課1、政策推進課2、社協ボランティアセンター1、みんなで地域づくりセンター3、コアメンバー4</p>
<p>3月14日 ①9:30 -10:20 211:30 -12:30</p> <p>(三者連携の打合せを挟んで2回)</p>	<p>コアメンバー会議 ネットワークの支援のあり方について、次年度の災害支援学習会の企画について 【意見】 三者打合せでは、市、ボランティアセンターから支援の現状が聴けたので良かったネットワークの立ち位置(組織のあり方)を明確にすべき、会則、参加メンバーなど。 →メンバーは、現状のまま(支援する側、される側を)分けなくて、広くすることで情報を得て、また参加者が持ち帰ることができるメリットがある。その中で、実働できる人は増やしていけばよい。 →各団体の情報交換をして、互いの活動を知ることが大切。 【次年度の計画】 ① 災害支援講習会(6月) 避難所でのペットの受入れ方 (対象：避難所運営委員会、これから立ち上げるところ) 講師：日本ペット飼育協会 ② 避難所運営委員会立ち上げ・運営の研修(10月下旬)</p>		<p>セン ター</p>	<p>コアメンバー4 ペット飼育協会2、食を通して、国際交流センター3</p>

地域の多様な主体が参加しつながりや連携を進めることを目的にコーディネートしている事業

(3) 福祉施設紹介・販売フェア 第20回大きなテーブル

・第22回 福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル

目的 福祉施設の紹介・販売のみでなく、他団体、他事業者、市民等とのつながりをつくることを目指す。

日時 6月17日(土)10:00~14:00 会場 文化センター前広場及び展示ホール

主催 実行委員会(センターは事務局) 共催 地域振興財団 後援 四街道市(障害者支援課)

出展 24団体(福祉団体15、協賛団体9) 来場者数約1200人 売上813,670円

ボランティアの参加 21人 内訳:ボラセン8(4+千葉大4)、愛国5+1、子ども会連合会1、情報大6

【振り返り】6月27日

・市民と団体、団体同士の交流が進んだ。施設利用者が以前の施設の職員と再開するなど、様々な地域のつながりが感じられた。

・ボランティアの活動が力になった。今後はもっと力を発揮してもらえるよう、受入れの仕方を工夫する。

・ボランティア参加アンケートから—他校との交流もでき貴重な体験ができた。今後も参加したい(12人/提出13人)

(4) ちばユニバーサル農業フェスタ2023in四街道

日時 9月18日(月・祝)10:00-14:00(開会式9:45) 場所 文化センター前広場及びホワイエ・展示ホール

主催 実行委員会(事務局 NPO法人地域創造ネットワークちば)

後援 千葉県、四街道市(産業振興課)、四街道市教育委員会、四街道市社会福祉協議会等

出展 26団体(農業者・福祉団体・事業者・NPO・生協など) 来場者数1300人 売上総額944,900円

ボランティア8人(ボランティアセンター:3人、千葉県福祉ふれあいプラザボランティア体験:5人)

新規就農相談3件その他相談5件(産業振興課) 農福連携の紹介(千葉県障害者就労事業振興センター)

「みんなでカレンダープロジェクト」政策推進課・みんなで地域づくりセンター

フードドライブ(廃棄物対策課) リサイクル市(図書館)

【振り返り】10月11日

農業者、地産地消を進めるNPO・事業者、福祉施設などが出展し、来場者との交流、団体同士の交流や連携につながる場となった。次年度は、ユニバーサル農業をよりアピールできるようにするため、農業者の出展を増やすことを目指す(産業振興課からも声掛けしていただく)

3. 地域づくり情報の収集、把握、共有及び提供に関すること

(1) 情報誌「みんなで」年4回発行し、より多くの市民に地域づくりの情報を届ける工夫する。

※＝コラボ四街道事業実施団体

7月	自分たちで進める地域づくり 7月1日発行	Vol.36 5000部	取材(コラボ四街道事業をスタートする団体) ちょこっとクラブ※ 笑うベスマホ庵※ よつかいどう学生服リユース※
11月	「活動を継続する」ということ 11月1日発行	Vol.37 4500部	取材 四街道自然同好会※、 認定NPO法人たすけあいの会ふきのとう 一般社団法人千葉県冒険遊び場ネットワーク(ちばぼう)
3月	災害から命を守る地域の力	Vol.38 5000部 200部増刷	取材 四街道市消防団、 さがが丘1丁目自主防災組織

(2) ホームページ及びSNS等への掲載について

- ① ホームページ リニューアル スタッフが更新を行いよりタイムリーで効果的な発信を目指す
- ② Facebook いいね! 900(昨年度868) フォロー1088(昨年度1028) 年間投稿数208件(昨年125件)
ブログ27件/年(昨年度10件) インスタグラムフォロワー192(昨年度147)
- ③ メール 子ども支援ネットワーク講演会呼掛け
団体情報の更新、ユニバーサル農業フェスタ等の連絡、ファンディング講座参加呼び掛け等
- ④ 団体基本情報掲載 83団体 メール・電話で更新呼びかけの連絡
- ⑤ みんなでカレンダープロジェクト テーマ: いちおし 3月31日で終了(その後暫く掲載継続)

⑥そごう千葉店地階通路展示「みんなで地域づくり」 12月5日(火)～11日(月)

センター紹介、ハフェスで子どもたちが作成したパネル、「みんなで」、みんなで地域づくりセミナーチラシ、アートワークショップ・大きなテーブル・ユニバーサル農業フェスタ写真、「まちの記憶」パネルなど約40点を展示。

⑦八(はち)フェス出展 11月25日(日) 場所 四街道市たかおの杜第3公園

主催: 社会福祉法人よつかいどう福祉会 (福祉・農・商・工の連携、障がい福祉の啓発)出展 25ブース

出展の目的: 来場者にセンターの事業を紹介し、周知を図る。

内容: センター紹介パネルの展示。アート(ボードに自由に描く)への参加をきっかけに、アドカード(HPやfacebook紹介)や災害支援交流会のチラシ等を手渡し、センターの事業について紹介することができた。

4.地域づくりを担う主体からの相談に関すること

・相談件数は、過去3年間で最も高くなっている。コロナ感染症の影響が少なくなったこともあると思われるが、コロナ前と比較しても多く、特に下期が高く、コラボ四街道に関連する相談などを中心として相談事業の広がりがあると思われる。

2023(令和5)年度 99件(上期28 下期71)

2022(令和4)年度 89件(上期34 下期55)

2021(令和3)年度 71件(上期34 下期37) ※2020年47件、2019年69件、2018年度59件

分類	(件)	相談例
地域の情報問合せ	37	活動団体や人(講師・通訳)、活動できる場所、草取りのボランティア、子ども食堂への寄付先と情報交換の場所、高齢者が利用できる地域食堂、歴史や散歩の地図についてなど。
地域の課題・活性化	21	第1子子育て中のママたちの居場所がほしい、自宅か空き家で発達グレーの子の親のサロンを開きたい、夏休みの間に体重減の子が多いので子ども食堂について知りたい、(コンビニから)フードドライブの食材を提供できる仕組み作りをしたい
「コラボ四街道」に関するこ	13	コラボ四街道に申請したい(農福連携の活動をいろいろな主体を巻き込んでほしい、オレンジカフェの備品を購入したい、子どもの居場所・親の交流の場をつくりたい、農商工×福祉のイベントを開きたいなど)、申請書の書き方が分からない(担当課、事業全体の中の申請事業の予算の表し方)、プレゼンの仕方が分からない、コラボ四街道の補助金の使途について
市民活動団体の運営	9	広報、会員募集、参加者募集、活動の場所代、子ども食堂の保険、福祉有償運送の保険と団体登録などについて。
団体の立ち上げ(活動を始めたい)	2	子ども食堂の始め方・仕組みを知りたい、心と身体のケアを目的とした活動を始めたい
IT・パソコン	3	メールアドレスの受信拒否設定(詐欺対応)、PC関係のシステムを扱える人がいなくなって作業に困っている。
活動への参加	2	子ども食堂のお手伝いがしたい、ボランティア活動に参加したい。
自治会の運営	1	自治会情報交換会について。
市政に関すること	1	(担当課から)産業まつりのブース出展の協力をお願いできる学校を紹介してほしい。
その他	10	映像関係のスキルや機材を伝授しながら譲りたい、団体登録、センターへの協力依頼、自社の事業への補助金について。

●相談対応件数 延べ 99 件 (相談者:市民59、事業者21、行政・関係機関19)

5.上記業務遂行のための各種講習会の実施に関すること

「1.地域課題への取組みのプロデュースに関すること、2.地域づくりを担う主体のネットワークに関すること」の中で記載

6. その他上記遂行のために必要な事項に関すること

(1) 大学・高校との連携

① 愛国学園大学

「大きなテーブル」へのボランティアへの参加募集、産業まつり担当課フードロス削減メニュー協力コーディネート、福祉に関心を持つ学生の体験先紹介など、様々な場面での連携があった。大学からは、学生がボランティアなどに参加したことで積極性が出たとの感想が出された。今後も地域づくりに若い世代との連携を検討・実施していきたい。

② 淑徳大学 大学の地域づくり授業でセンターの見学を行った 7月28日(学生18人、教員2人)

③ 千葉敬愛高校 生徒会から赤い羽根募金箱設置の依頼があり、直接説明を聞いてセンターに設置した。

(2) 関係機関等との連携・協力

① 関係機関との連携

・支えあい推進会議、100人情報交換会(および昼食交流)などでは、地域包括支援センター、くらしサポートセンターみらい等と連携、子ども食堂のボランティアや、食材の提供などでは、ボランティアセンターや みらいなど関係機関と連携し協力を得て事業を進めた。今後もみんなで地域づくりセンターが、地域の支え合いなどの活動について状況を把握し、センターの関係する団体への広報やコーディネートなど、関係機関との連携する場面で活かしていきたい。

② 富里市研修 7月12日

・内容(質問事項) みんなで地域づくりセンターの事業について、コーディネーターの役割、登録団体へのフォローアップ、SNSの利用状況、若い世代へのPR方法、情報誌の作成の流れなどについて。

③ 市民大学講座へのセンター事業紹介について

・情報誌「みんなで」、主催講座、「大きなテーブル」「ユニバーサル農業フェスタ」のチラシなどを発行の度に配布し地域づくりやセンターの役割について知らせた。

④ 下志津病院 地域医療連携室 木村聡子さんとの情報交換 11月30日(医療地域連携について)

・後日頂いた連絡:病院の軸は「治療」なので連携できることに限界があるが、地域医療連携室は、病院と社会をつなげる役割も担っているので、「これは！」と思うことがあれば是非声をかけてください。
→これを受けて、「まちの記憶」の配架をお願いした。

⑤ 韓国オヌル共同体 センター見学 12月14日(木)

・見学者 韓国オヌル共同体6人(高齢者支援関係者)、(社福)生活クラブ職員・研修生のジョ・ユソンさん 計7人
・受入れ側 センタースタッフ6人、デイサービスのどか杉山薫さん
・目的 センターがどんな事業を、どんな目的で、どんなつながりができ、地域づくりをしているかについて知る。
・内容 センター事業と地域の取り組みについて「地域のつながりマップ」も示して、地域づくりのコーディネートについて説明した。

【参加者の感想】

・市民活動と行政、福祉団体、関係機関との多様なネットワークを長い時間続けてきた底力が凄い。
・住民が参加できる多様な場を設けていること、ぜひ反映してみたい。
・活動の全体像が一枚のマップで表現されたのを見て、センターが大勢の市民とつながっているか理解できた。
・市民と行政など、地域を舞台にして、課題解決のためにはそういう中間支援組織の存在がとても大事だと感じた。

令和5年度四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業報告（写真編）

＜みんなで地域づくりセミナー＞ 市民活動団体交流会 6/6



市民活動団体
ボランティア体験
説明会 6/30



コラボ四街道申請支援 キックオフ ファンドレイジング講座 9/16



＜自治会情報交換会＞ 事例報告と情報交換 7/7



コラボ四街道制度を活用しよう 概要説明/企画書を書いてみよう 9/28



PowerPoint を使って プレゼン資料を作成しよう 1/13



プレゼンを してみよう 1/25



＜アートを活かしたまちづくり＞ みんなでアート2023 ワークショップ 「ふるさとまつりをみんなで彩ろう」 7/8, 26



ふるさとまつりで飾られた様子

＜子ども支援ネットワーク＞

子ども支援交流会 4/20 地域×こども～何ができる？何がしたい？～



地域食堂・子ども食堂交流会 12/7



<災害支援ネットワーク>
令和5年度第1回交流会12/5(上) 第2回2/3(下)



<情報発信>
地域の「やってみたい」を応援する情報誌「みんなで」



そごう千葉店地下通路写真展
「みんなで地域づくり」12/5～11



よつかいどう福祉会主催
ハフェス出展でセンター紹介



<多様な主体のつながりや連携を図る>
福祉施設紹介・販売フェア「大きなテーブル」6/17



ちばユニバーサル農業フェスタ 20223n 四街道 9/16



大きなテーブル実行委員会



<高校との連携>
敬愛高校生徒の赤い羽根募金協力



<見学受入れ> センターの地域づくりについて
韓国オヌル共同体より



四街道市みんなで地域づくりセンター令和6年度事業計画

(令和6年度 四街道市地域づくりコーディネーター業務委託事業)

2024.4.12

II. 講座・企画事業の開催

ア.地域課題解決に向けた取り組みに関する具体的な実施方法について

(1) みんなで地域づくりセミナー コラボ四街道申請と採択後の支援

【目的】

- ・地域づくりに取り組む団体の基盤強化(人、資金、情報、スキルなど)を目指します。
- ・これから地域づくりに関わりたい市民・市民グループのきっかけづくりします。
- ・採択団体が継続していくための土台作りをサポートします。

① みんなで地域づくりセミナー

- ・令和6年度事業の進め方

	市民	四街道市	センター
			4/17 市政だより6/1号原稿
6月			6/18市民マネジメント講座
7月			7/16アイデア種出し 事業を企画しよう座談会
8月		8/1号市政だより 「みんなで」採択団体紹介①	
9月	9/24 ・コラボ四街道説明会 ・申請書作成講座	9/1市政だより 「コラボ四街道募集します」 「コラボ四街道説明会募集」 「申請書作成講座」	9/1説明会・申請書作成講座募集開始 9/24 ・コラボ四街道説明会 ・申請書作成講座
10月	申請に向けた個別相談会 (4回開催)	・募集期間中 三～四社面談 (みんなで課・担当課・団体)	申請に向けた個別相談会 (4回開催)
11月	申請締め切り	11/15号市政だより 「みんなで」採択団体紹介② プレゼンのコツ講座募集	11/26プレゼンのコツ
12月	担当課と意見交換等	(メール配信 申請団体への 連絡)	プレゼンの個別相談会
1月	1/25プレプレゼン 審査員からの質問	〃	1/13パワポ講座 1/25プレプレゼン
2月	2/13プレゼン	2/13プレゼン	2/6公開プレゼン設備案内等メール
3月	初旬決定通知	採択連絡と今後の予定	
4月	採択団体必要書類提出	〃	

② コラボ四街道採択後の支援

- 各事業の担当をつくり、事業の進捗を把握し必要なサポートをします。

(2) 地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ関係機関と協力すること

○地域の高齢化が進む中、支え合いの担い手不足などの課題に対して、四街道市地域支え合い推進会議に参画し、地域包括支援センターをはじめ関係機関と協力します。

- ・センターは、地域づくりに関わる団体や市民とつなぎ情報提供をします。
- ・「四街道の支え合い100人情報交換会」などに対し企画・準備や広報などの協力をします。

(3) 自治会の担う地域の活動の支援

・これまでの形の課題を出し合う「自治会情報交換会」は行わず、自治会も含めて地域の課題解決に役立つテーマでセミナーや情報提供を行います。
(避難所運営委員会の立上げ、若い世代の自治会参加など)

(4) 外国人との交流や支援

・市内在住外国人との交流や災害時の支援などについて、四街道市国際交流協会等の関係団体・機関と連携して進めます。
(四街道みんなで災害支援ネットワークには、四街道市国際交流協会からも参加しています)

(5) みんなのアート(仮) ～アートで地域づくり～

【目的】

・子ども、障がい者、高齢者などだれでも楽しめるアートをとおして、地域づくりに参加する機会を提供します。市内にある、特別支援学校や下志津病院(医療的ケア児病棟)、県立千葉盲学校などにも声を掛け、子どもたちが地域づくりに参加する機会をつくります。

【内容・実施方法】

・みんなのアート四街道2024 ワークショップ 7月6日(土)7月25日(木)

絵を描くほか、学ぶ、触れる、創るなどの要素も取り入れます

・ホームページに『みんなのアート』のコーナーを開設し、市民の作品を掲載し、センターにも掲示します。

(6) 相談対応から地域づくりにつなげる

【目的】

センターが地域づくりに関わる様々な相談に対応する場として、広く広報するとともに、寄せられた相談に積極的な姿勢で丁寧に取り組み、地域課題の解決につなげます。

【内容・実施方法】

- ・相談は常時受付、気軽に受けられる工夫をします。会計相談は日程調整をして対応します。
 - ・市役所の各担当課および関係機関と連携して相談対応にあたります。
 - ・コーディネーター等が、市の施策・制度や地域課題などについて学びます。また、相談対応力を高め、団体運営に関する相談に対応できるようにするため、研修会などで学ぶ機会を持ちます。
- ※「行ってみよう」「聞いてみよう」「相談してみよう」を促すために
- ・ホームページで相談事例の紹介をします。
 - ・Facebookページで、「こんな相談を伺いました」を紹介します。

(7) 学校等、行政および関係機関との連携・協働

①大学、高校等との連携

- ・職場体験、インターンシップなどの受入れを行います。
- ・市内および近隣の大学生、高校生など若い世代との交流や学校との連携を図ります。
市内高校、愛国学園大学、淑徳大学、東京情報大学など
大きなテーブルなどでのボランティアをきっかけとして地域の活動への参加を呼びかけます。

②行政および関係機関等との連携協力

- ・地域づくりのコーディネートを市の各担当課と連携・協働して進めます。
- ・地域包括支援センター、ボランティアセンター、くらしサポートセンター「みらい」、国際交流協会等と分野や対象を超えて連携することで、よりきめ細かく効果的に地域の課題解決につなげます。
- ・市民大学講座の受講者へ、情報誌「みんなで」およびセンター主催事業チラシ等を配布し、地域づくりへの市民参加を促します。

イ.地域づくりを担う主体のネットワークづくりに関する具体的な実施方法

(1)子ども支援ネットワーク

【目的】

- ・子どもを取り巻く環境の課題に対して、子ども支援のネットワークをさらに進め、行政や関係機関とも連携して支援ができることを目指します。
- ・子ども食堂(地域食堂)を年間のテーマとして取り組み、地域コミュニティを豊かにします。

【内容・実施方法】

- ・子ども食堂(地域食堂)の新規立ち上げの伴走、ネットワーク化を図る(情報共有や寄付品分配のシステムづくり)
- ・市内には子ども食堂(地域食堂)がまだない空白地域があり、立ち上げに向けた人の掘り起こしや情報提供をします。

・地域食堂×市民×企業ミーティング 7月30日(火)

目的:市内食堂運営者、関心のある市民や企業との情報交換をして、結びつきをつくる

・円卓会議 12月11日(木)

目的:地域食堂の活動状況について、各関係機関とシェア

(2)災害支援ネットワーク(みんなで災害支援ネットワーク)

【目的】

- ・市民や団体、企業が連携して被災者支援できる関係を築きます。
- ※日常をいち早く取り戻していくために、災害時、行政(市)・社協(災ボラ)・NPO(市民団体など)の三者が連携/協働することが必要とされています。センターの役割としては、行政や社協に対して、市民団体の支援活動の情報提供を行っていくことです。

【内容・実施方法】

①みんなで災害支援ネットワークの活動

- ・コアメンバーを中心に企画運営ができるようなサポート体制を整える(センターは事務局)

・災害支援講習会 6月上旬

- ・災害支援リストを完成させ、市(危機管理室)に情報提供する。(随時更新)

支援リストの意図や内容について周知しリスト掲載団体を増やす。

②避難所運営委員会立上げ・運営の研修会 10月下旬(運営委員会は現在6カ所/27カ所中)

自治会など地域の団体対象に、すでに立ち上がっているところからノウハウを学ぶ

③市と社会福祉協議会(災害ボランティアセンター)との連携

- ・上記のリストやネットワークの情報を市と共有、また危機管理室や社会福祉協議会との打ち合わせを定期的に行うことを目指します。

(3)地域の多様な主体の参加によるネットワーク

地域の多様な主体が参加し、つながりや連携を進めることを目的にコーディネートします。

①福祉施設・紹介販売フェア「大きなテーブル」(第24回)

第24回福祉施設・紹介販売フェア「大きなテーブル」

日時:5月18日(土)10:00~14:00 場所:文化センター前広場および展示ホール

出展:25団体(福祉団体、協賛団体) 子どもが楽しめるワークショップ、学生服リユース(回収)

主催:大きなテーブル実行委員会、共催 地域振興財団 事務局 センター内

実行委員会第3回3/19、第4回 4/23(+出展団体交流会)203会議室 5/17前日準備

後援(障害者支援課)申請中 ・屋外会場減免申請 ・市政だより4/15号 ・ボランティア募集

・福祉事業所 イベント販売等における 販売会基礎研修 (協力:参加者募集・連絡等)

目的:福祉事業所の販売現場を再現して、陳列等のアドバイスを直接指導いただき、参加者と情報を共有し、

「大きなテーブル」において活かせるようにする。

日時:4月18日(木)13:30-15 場所:四街道市文化センター203

講師:日本商業施設士会HM販売研究会:花見保次・監物秀夫、鈴木睦子(敬称略)

対象:「大きなテーブル」参加事業所の販売実務担当者

陳列モデル:4団体(どんぐり工房、ピース、ワークショップ四街道、のどかファーム)がアドバイスを受ける。

主催:千葉県障害者就労事業振興センター 協力:みんなで地域づくりセンター

(4)ちばユニバーサル農業フェスタ

「新規就農」「農福連携」「地産地消」など、みんなで関わる農業＝ユニバーサル農業を進めることをテーマに、地域の様々な連携をつくります。

・ちばユニバーサル農業フェスタ2024in四街道 11月16日(土)
(実行委員会主催、事務局 NPO法人地域創造ネットワークちば)

ウ.地域づくり情報の収集、HPやSNS等を活用した情報提供について

(1)情報誌「みんなで」

- ・～地域の「やってみたい」を応援する情報誌～
- ・コラボ四街道採択事業など市民活動を知ってもらう、センターを知ってもらう。

【内容】

- ・市政だよりに掲載 8月1日号(掲載希望)コラボ四街道採択団体・センターでの取り組み
- ・市政だよりに掲載 11月15日号(掲載希望)コラボ四街道採択団体・センターでの取り組み
- ・センター発行 3月1日号 みんなで特集号 これまでの形で発行するイメージ

(2)ホームページ及びSNS等への掲載について

- ・ホームページリニューアル(令和6年3月)により更新作業をスタッフが先行、イベントの告知や活動報告など、よりタイムリーな発信を目指します。
- ・ブログ、Facebook、Instagram、X(旧ツイッター)、メール等と紙媒体を合わせて、対象と内容により方法を選択して効果的な発信をします。

①ホームページ 市民が登場するコンテンツとして『みんなのアート』のコーナーをつくり市民の作品を掲載します。

- ・ホームページ・Facebookに相談事例を掲載します。
- ・団体基本情報をホームページで公開し、市民の関心と理解を深め活動への参加につなげます。掲載団体の活動を知るため、取材を行います。
- ・Facebook ホームページに掲載し日々の動きが見られるようにします。
- ・Xをイベント告知の拡散に活用します。
- ・センターに来た人が、地域づくりに役立つ情報が得られるよう展示内容や方法を工夫します。
- ・オンラインによる情報発信やコミュニケーションの活用を図ります。
- ・市内(JR駅、フードコートなど)で地域づくりの展示を行います。

エ.地域課題解決に向けた各種講習会に関するスケジュール、実施方法について

	ア.地域課題解決に向けた取組み					イ.地域づくりを担う主体のネットワークづくり			ウ。地域づくりの情報の収集、HPやSNS等を活用する情報提供			
	みんなで地域づくりセミナー	支え合い(推進会議参画)	アートを活かしたまちづくり	相談対応	学校・関係機関等との連携・協働	子ども支援ネットワーク	災害支援ネットワーク	大きなテーブル ユニバーサル農業フェスタ	情報誌「みんな」/ 市政だより掲載	HP◎・SNS(ブログ/FB等)○	団体基本情報	その他
4月			「みんなで作る四街道マップ」		愛国学園「大学生も地域とつながろう！」(協力)			★①4/15号 4/18福祉施設販売基礎研修		◎○	(83団体掲載)	
5月			地図準備:四街道高校、特別支援学校との連携		↓		★①5/15	5/18大きなテーブル 5/29振り返り		◎○		
6月	★①6/1号 6/14みんなで地域づくりセミナー広報編「チラシ持ち寄り大会」	(6/28推進会議)	★①6/15		↓		6/19災害支援講座「避難所でペットの受け入れ方」			◎○		
7月	★7/15「相談開始」告知 *コラボ四街道個別相談スタート	(7/28地域支援組織・たすけあい連絡会情報交換会(傍聴))	7/6アートWS ①② 25 アートWS ①②		7/18愛国: 振り返りの会 淑徳大学「みんなで地域づくりプロジェクト」(協力)	★①7/1号 7/30地域食堂×市民×企業ミーティング				◎○		
8月	(個別相談 継続)				↓		8/8ユニバーサル第1回実行委	○8/1号 市政だより掲載		◎○		
9月	★①9/15掲載 9/24「コラボ四街道」の申請書のポイント	9/1支えあい100人情報交換会			↓					◎○		
10月	(個別相談 継続)				↓		★①10/1 10/下旬 避難所運営委員会立ち上げ・運営の研修	★①10/15		◎○		
11月	★①11/15 11/26プレゼンのコツ(パワポ資料の作成)				↓	★①11/15		11/16ユニバーサル農業フェスタ	○11/15 市政だより掲載	◎○		
12月	(プレゼン個別相談)					12/11 円卓会議(地域食堂の活動状況シェア)				◎○		
1月	1月下旬 プレプレゼン				1/下旬 淑徳大学「成果報告会」					◎○		
2月	(プレゼン本番)									◎○		そごう展示
3月								○3/1 「みんな」特別号		◎○		

コラボ四街道ガイドブック 2025（案）

みんなで地域づくり事業提案制度募集要項

募集期間

2024.9.1|日|-10.31|木|

意見交換等期間

2024.11.8|金|-11.29|金|

最終提出期限

2024.12.13|金|

公開プレゼンテーション

2025.2.17|月|

^^^-----

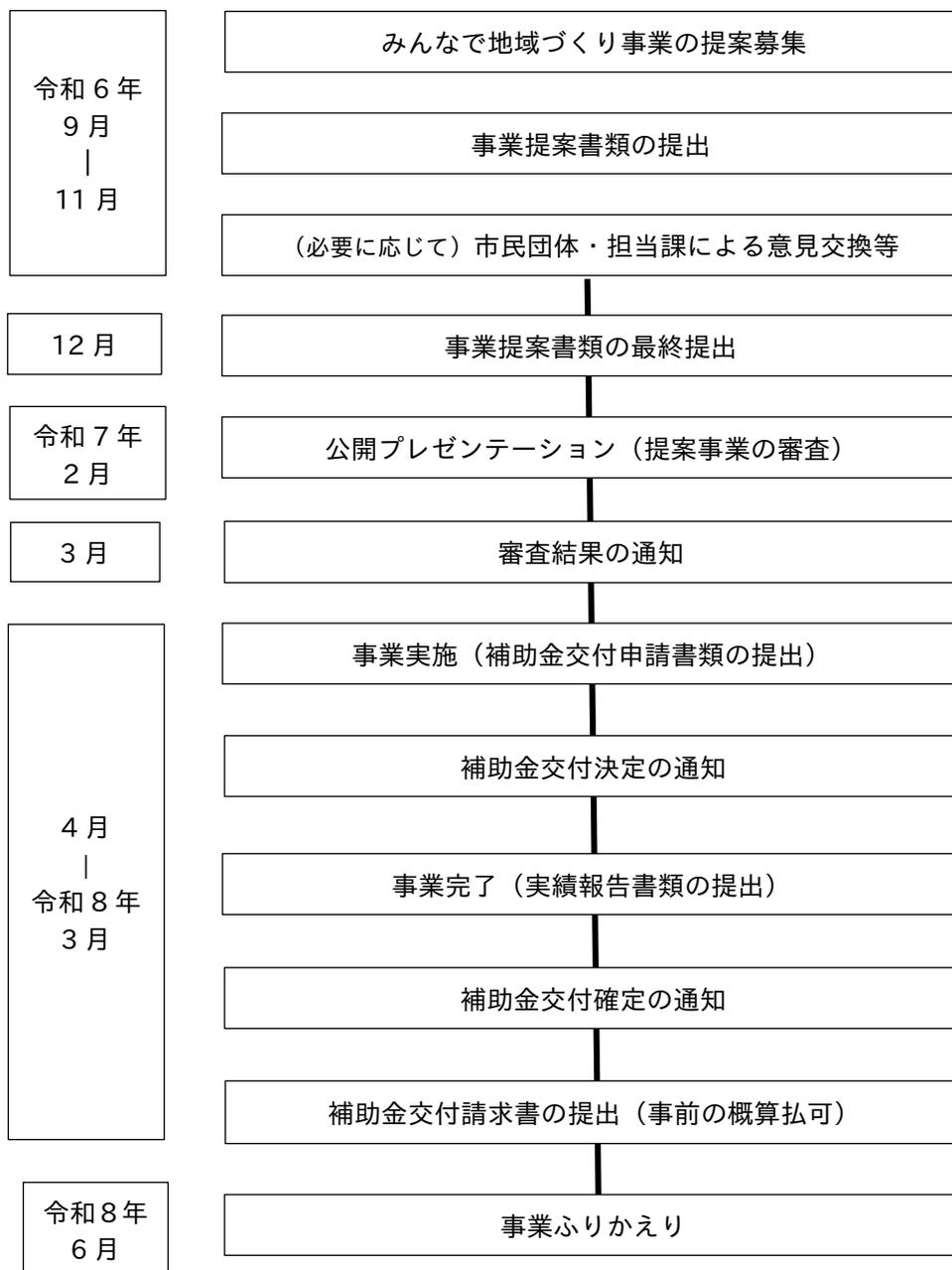
1 みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）とは

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）は、NPO 法人、ボランティア団体、自治会などの自主的に地域づくり活動を行う市民団体が、より良い地域づくりをめざして、地域にある課題の解決につながる事業を提案し、主体的に、または市と協力して事業を実施する制度です。

市民団体及び市は人材、技術、場所、資金等の社会資源を持ち寄ることで事業の実現性を高め、魅力ある地域づくりを実践していきます。

^^^-----

2 事業の流れ



^^^-----
3 事業部門・補助金額

事業実施にあたって、市民団体が提案できる部門は、以下のとおりとなります。また、補助金額は、次に示す補助率による補助額を上限として予算の範囲内で補助金を交付します。補助率とは、対象経費（6 対象経費 参照）のうち何%まで補助金の交付が可能かを示したものです。上限額の範囲内で補助金を申請してください。※補助金の額は千円未満を切り捨てた額となります。

① 地域づくり部門

交付上限額：1年度目 50万円 2年度目 40万円 3年度目 30万円

補助率：対象経費の90%

交付回数：同一事業につき3回

要件：地域づくりや地域課題等の解決を図るためのスタートアップや活動を拡充させる事業であること。

（補助金額例）地域づくり部門：申請1年度目・対象経費580,000円の場合

580,000円（対象経費）×90%（補助率）=522,000円になるが、補助金の申請は上限である500,000円まで可能となる。

② 若者チャレンジ部門

交付上限額：1～3年度目の各年度10万円

補助率：対象経費の100%

交付回数：同一事業につき3回

要件：生徒や学生等が中心となり、地域づくりや地域課題等の解決を図るための事業であること。

（補助金額例）若者チャレンジ部門：申請2年度目・対象経費85,500円の場合

85,500円（対象経費）×100%（補助率）=85,500円となるが、補助金の申請は千円未満を切り捨てた85,000円まで可能となる。

※補助期間は単年度ですが、補助を継続することで次年度以降の事業の波及性、発展性等が見込まれるものや大きな成果が期待できる場合は、3年度を限度に申請が可能です。（審査は年度ごと実施）

※事業の実績を踏まえて、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください。

□補助金の金額の変更について

補助金の金額は、提案書類提出後、原則変更することができませんので、ご注意ください。

また、決算時に対象経費の90%が予算時の補助金額に満たない場合は決算時の対象経費の90%までしか補助金を交付することができませんので、ご注意ください。

^^^-----
4 提案できる団体

提案できる市民団体は、次の①～⑤のすべての要件に該当する団体とします。また、若者チャレンジ部門に関しては⑥～⑧を含むすべての要件に該当する団体とします。（*NPO、事業者等も対象になります。）

- ①四街道市内を主な活動範囲としていること
- ②運営及び会計処理が適正に行われていること
- ③3人以上で組織されていること
- ④同一世帯（家族）のみでの申請は認められない。

⑤構成員には満 18 歳以上の方が 2 人以上必要です。いない場合は、構成員とは別に満 18 歳以上の責任者及び会計担当者を各 1 人以上置くこと。

⑥事業実施年度において在学している中学校、中等教育学校若しくは高等学校の生徒または高等専門学校、専修学校、大学（短期大学を含む。）若しくは大学院の学生その他の 10 代及び 20 代の若者を主体とした市民団体とする。（*在学証明書等の提出が必要）

⑦構成員の半分以上が生徒または学生等であること。

⑧生徒（未成年者）により構成される場合は、法定代理人による同意を得ていること。

^^^-----

5 対象となる事業

本制度の対象となる事業は、次の①から③のすべての要件に該当する事業で、かつ④から⑦までのいずれかに該当するものとします。

- ①地域づくり、地域課題等の解決につながるもの
- ②市民ニーズに柔軟に対応し、具体的な成果が期待できるもの
- ③事業計画及び予算の積算が適正であるもの
- ④市民の地域への参画が促進されるもの
- ⑤市と協力して実施することにより、市及び市民団体双方の事業の推進に相乗効果が期待できるもの
- ⑥市民団体の基盤強化や人材育成につながるもの
- ⑦事業の目的意識や役割分担が明確で地域づくりにつながるもの

ただし、次のいずれかに該当する事業は対象外とします。

- ①現在本制度の事業として実施されている事業で 3 年を超えるもの
- ②営利のみを目的としたもの
- ③特定の個人や市民団体のみが利益を受けるもの
- ④調査研究のみを目的としたもの
- ⑤交流または親睦のみを目的としたもの
- ⑥宗教活動または政治活動を目的としたもの
- ⑦特定の公職の候補者もしくは公職にある者または政党に関係するもの
- ⑧暴力団または暴力団員と関係するもの
- ⑨公序良俗に反するもの
- ⑩国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けているもの
- ⑪既存制度で対応できるもの
- ⑫その他市長が適当でないとするもの

[具体例]

多文化共生活動・・・外国人に対する防災の啓発、アフガニスタン人との交流イベント

環境活動・・・環境美化、里山保全（公共施設の環境美化活動、ほたる観察会）

地域福祉活動・・・高齢者等訪問活動、スマホ・PC 教室、チャリティバザー、

教育活動・・・子供向けのプログラミング教室、スポーツイベント

居場所づくり・・・子ども食堂、高齢者サロン

その他・・・特定地域※（千代田地区）を対象とした地域活力の維持・向上等の活動、子育て世代向けイベント、

※総合計画第 1 期基本計画において、市の中で最も高齢化率の高い千代田地区を「特定地域」と指定

6 対象経費

補助金の対象となる経費は次のとおりですが、経費の妥当性や金額については、担当課との意見交換や審査の段階で調整する場合があります。

- ①報償費
- ②旅費
- ③需用費
- ④役務費
- ⑤委託費
- ⑥使用料及び賃借料
- ⑦備品購入費
- ⑧その他の経費

*市からの補助金交付決定通知以前に発生した費用は原則対象となりません。

□有償ボランティアの考え方（参考）

・有償ボランティア費（報償費）の計上にあたっては、公的資金を活用しての事業となること、また他の市民活動やボランティア活動との公平性等を考慮し、真に必要な経費であるかを精査してください。

[有償ボランティアの目安]

500 円／半日（4 時間程度） 1,000 円／1 日（8 時間程度）

□備品購入費の考え方（参考）

・備品購入費の計上にあたって、地域づくり部門は、1 品 1 万円以上 5 万円以下かつ補助金額に対して 2 割を上限とし、**若者チャレンジ**部門は、1 品 1 万円以上 2 万円以下かつ補助金額に対して 2 割を上限とします。なお、購入した備品は備品台帳を作成し、管理してください。

例 1) 地域づくり部門

500,000 円（補助金額）×20%（上限）=100,000 円

上限である **100,000 円**まで備品購入費の計上が可能（1 品 **50,000 円**まで）

※1 品 40,000 円の備品を 2 点、30,000 円の備品を 1 点購入した場合、合計で 110,000 円となるので、このうち 100,000 円が対象経費、10,000 円を対象外経費となります。

例 2) **若者チャレンジ**部門

100,000 円（補助金額）×20%（上限）=20,000 円

上限である **20,000 円**まで備品購入費の計上が可能（1 品 **20,000 円**まで）

□予算計上時の注意点

・団体構成員に支払う費用についてはどの費目においても対象外経費です。

※ただし、専門的な知識を有する方への依頼等を除く。

・対象経費の基準に当てはまっている費目であっても、予算書の対象経費内に計上されていないものは、決算時に対象外経費での計上となります。計上漏れがないかご確認のうえ、ご提出ください。

・採択は単年度事業に対してのものであるため、採択事業実施年度の翌年度以降の準備に要する経費については対象経費であっても計上できません。（繰越金等）

□対象となる経費の例示

費目		例示
報償費		<p>◆外部講師、出演者への謝金（外部講師等への交通費は報償費で計上） *ただし、1人あたりの報償費の上限を5万円とする</p> <p>◆有償ボランティア費（主たる活動への団体構成員以外に対する謝金） *ただし、総事業費に占める割合が概ね3割を超えない範囲</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体構成員に対する謝金・菓子折り等（現金以外のもの） ・団体構成員でない場合であっても、団体内部の会議への参加に対する謝金
旅費		<p>◆事業実施にあたり直接的に要するバス、電車等の交通費 *ICカード等の使用により費用の証明が困難な場合は、経路、移動先等が客観的にわかる資料を整えること</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体構成員に対する交通費、イベント等参加者の交通費
需用費	消耗品費 *購入価格が1万円未満のもの	<p>◆筆記用具、コピー用紙、種苗、環境衛生のための薬剤等</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者への花束等の品物 ・コンテスト等のトロフィー、メダル、記念品
	印刷製本費	◆PRポスター、パンフレット、プログラム、コピー、写真の現像等
	燃料費	◆事業実施にあたり直接的に要するガソリン等
役務費	通信運搬費	<p>◆募集案内、チラシ、商品の受け取り等の送料</p> <p>◆会場までの資材等の配送に係る運搬費</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人、団体が所有している電話等の通信費・団体構成員のみの会議等に係る通信費
	手数料	◆振込手数料、クリーニング代
	保険料	<p>◆事業実施にあたり必要な保険料（イベント保険等）</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災、地震等の家屋に係る保険料
委託費		<p>◆事業実施にあたり、専門的な技術等（デザイン等）を要する業務を外部に委託する経費</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を全て外部に委託する等
使用料及び賃借料		<p>◆公民館等公共施設、会議室、イベント会場等使用料</p> <p>◆機材レンタル・リース料等</p> <p>◆事業実施のために借り上げた施設の賃借料</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人、団体に車両等を借りた場合の使用料 ・団体等が管理する施設等への使用料 ・団体事務所等、団体運営のための経常的な経費に当たるもの
備品購入費		<p>◆事業実施にあたり必要不可欠なもので、長期的に当該事業において使用する物品</p> <p>※地域づくり部門は、1品1万円以上5万円以下かつ補助金額に対して2割を上限とし、若者チャレンジ部門は、1品1万円以上2万円以下かつ補助金額に対して2割を上限とする</p> <p>※備品台帳を作成すること</p> <p>（認められない経費）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1品5万円を超える物品 <p>※汎用性の高い物品は、リース等を活用すること</p>
その他経費		◆事業のために必要な経費で、市長が必要かつ適切と認める経費

※全経費共通で補助対象にならないのは下記のとおりです。

- ・公的資金を支出する事業として、社会通念上、適切と認められない経費
- ・当該事業に直接必要と判断しかねる経費
- ・市民団体で経常的に要する経費（事務所の光熱水費やスタッフ人件費等）

^^^^-----
7 補助金以外の協力・サポート

市は、補助金の交付以外にも、相談や情報提供等、事業実施にあたり必要な社会資源の提供を積極的に行います。提案にあたっては、双方が提供できる社会資源について意見交換を行い、効果的に事業の実施ができるよう努めます。また、本制度に採択された場合は広報支援として、採択年度では2回／年、採択翌年度では1回／年市政だよりに記事の掲載をすることが可能となります。

□みんなで地域づくりセンターによるサポート

みんなで地域づくりセンターでは、普段、生活の中で市民のみなさんが感じる地域の課題やその解決方法、地域をよりよくする取組についてアイデアを出し合う場を設けています。

また事業提案に向けた申請書の書き方、資料作成のサポートやプレ・プレゼン（公開プレゼンテーション前の練習会）も行っていますので、ご活用ください。

みんなで地域づくりセンター（市文化センター内）
〒284-0001 四街道市大日 396
TEL：043-304-7065 FAX：043-424-8920 MAIL：info@minnade.org
火曜一金曜 9:00-17:00 土曜（第1・3） 9:00-17:00

^^^^-----
8 応募手順・方法

①書類の提出（募集期間内）

次の書類を作成の上、みんなで課に提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業提案書（実施要綱様式第1号）
- (2) みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第2号）
- (3) みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第3号）
- (4) 提案団体概要書（実施要綱第4号）
- (5) 団体の規約、会則等
- (6) 団体名簿
- (7) 団体の活動内容がわかるもの（新規団体を除く）

※募集期間内に提出された書類の内容や予算額等は、原則として、これより先の手順において団体都合で変更することはできません。この段階で事業の基礎は固めた状態で書類を提出してください。ただし、みんなで課から団体に書類の修正や再提出をお願いする場合があります。

②担当課との意見交換等

担当課との意見交換等を行い、事業を実施する上での課題等を共有します。

※意見交換期間中にみんなで課から担当課宛に意見照会を行い、その結果を各団体にお知らせします。各団体でも必要に応じて担当課と打ち合わせを行ってください。

③書類の最終提出

担当課との意見交換後、必要に応じて提案書類を修正した上で、再度みんなで課に提出してください。*必ず①募集期間内に提出した後、②の手順を経て、③最終提出してください。

④書類の配布場所

- (1) みんなで課
- (2) みんなで地域づくりセンター
- (3) 市ホームページ

9 審査

提案された事業は、みんなで地域づくり推進委員会委員の6名が提出書類及び公開プレゼンテーションにより総合的に審査を行い、最終的には四街道市長が採択団体を決定します。公開プレゼンテーションは、説明時間7分、質疑応答時間7分とします。

※応募団体が多数の場合は、事前に書類審査を行うことがあります。

□審査基準

審査項目	審査の視点
市民ニーズ・地域課題の認識・事業の必要性	市民や地域のニーズ、地域課題等を的確に捉えているか また本制度で事業を実施する必要性があるか
企画力・企画の適正性	地域課題の解決や地域づくりを効果的、効率的に進めていくための具体的かつ現実的な企画になっているか
実現可能性・継続性	事業を実施する能力（専門知識、技術、人材等）があるか また今後、事業の継続性（資金調達等）が見込めるか
発展性・波及性	事業の発展や地域に波及することが期待できるか また多様な市民等の参加・参画が見込めるか
成果・費用対効果	事業を実施することにより期待できる成果は明確かつ妥当であるか またその成果に見合った妥当な経費の見積もりがされているか

5点	4点	3点	2点	1点
とても評価できる	評価できる	基準（採択相当）	やや評価できない	評価できない

・各項目を5点満点で採点し、事業採択の適否を審査します。

・各委員が採点した平均点が15点に満たない場合は不採択とします。

・各項目の中で3項目以上が3点未満の評価となった場合は不採択とします。

*審査基準等は、協議により変更される場合があります。

10 事業の実施から完了まで

①補助金の申請

審査結果をもとに、市長は採択事業を決定します。

採択された市民団体は、必要に応じて担当課と詳細な意見交換等を行います。

補助金の交付にあたっては、次の書類を作成の上、4月1日以降、みんなで課に提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業補助金交付申請書（補助金交付要綱様式第1号）
- (2) みんなで地域づくり事業計画書（実施要綱様式第2号）
- (3) みんなで地域づくり事業収支予算書（実施要綱様式第3号）
- (4) 提案団体概要書（実施要綱様式第4号）
- (5) 団体の規約、会則等
- (6) 団体名簿
- (7) その他申請にあたり必要となるもの

※ただし(2)～(7)は提案時から変更がない場合は省略可

※補助金の概算払いを希望する場合は、事前にご相談ください。

※団体名、代表者名、事業内容等について、ホームページ等で公開する場合があります。

②事業の実施

事業の実施は4月1日から可能ですが、市からの補助金交付決定通知以前に発生した費用は原則対象となりませんので、事業に係る経費の支出も、補助金交付決定通知以降に行うようにしてください。

事業を実施する上では、担当課と協力し、必要に応じて、協議、調整を行ってください。

また、チラシ等広報物の発行やSNSでの広報等を行う場合には、コラボ四街道採択事業である旨の表記をお願いします。

また、みんなで課及びみんなで地域づくりセンターで情報を共有し、事業のサポートを行いますので、お気軽にご相談ください。

③事業の変更等

事業内容に変更が生じる場合、軽微な変更を除いて、みんなで地域づくり事業補助金変更（中止・廃止）承認申請書（補助金交付要綱様式第3号）の提出が必要となります。

また天災、団体の都合などにより、事業の実施ができない場合なども同様に提出することとなりますので、ご相談ください。

[軽微な変更の例]

- ・ 事業内容の目的達成に支障のない範囲での消耗品等の購入による増減
- ・ 予定開催日と同月内での日程変更
- ・ 団体構成員の変更 等

*上記の例にあっても、事業内容、全体への影響などの総合的な判断により、軽微な変更と認められない場合もあるので、早めにご相談ください

※事業を大幅に変更する場合、補助金の一部または全部を返金いただく場合があります。

④事業の完了

事業が完了したときは、市長が定める期日までに次の書類を作成して、みんなで課に直接提出してください。

- (1) みんなで地域づくり事業補助金実績報告書（補助金交付要綱様式第4号）
- (2) コラボ四街道まとめ（事業成果、課題、今後の事業展開等）
- (3) 収支決算書
- (4) 経費の支出がわかる書類（領収書等）
- (5) 備品台帳（備品を購入した場合のみ提出）
- (6) 印刷物や任意書式の報告書など必要と認められる書類

※ (2)、(3)、(5)、(6)の書類は、みんなで地域づくり推進委員会での資料として配布したり、市ホームページ上で公開したりする場合があります。（個人情報が入っている場合は、その部分を伏せた形で公表します。）

⑤補助金の確定

市は、上記書類を審査し、補助金の額を確定し、市民団体へ補助金交付確定の通知をします。

なお、審査の結果、補助金を減額する場合があります。

11 事業のふりかえり

市民団体は「コラボ四街道まとめ」を作成し、みんなで課に提出します。みんなで地域づくり推進委員会等から意見を聴くことで、次年度以降の事業に反映し、事業の質の向上を図っていきます。

12 おわりに

みんなで地域づくり事業提案制度（コラボ四街道）は、市民団体が、より良い地域づくりをめざして、地域にある課題の解決につながる事業を提案し、主体的に、または市と協力して事業を実施する制度です。事業終了後も継続することはもちろん、より充実した事業に発展させていくためにも連携や協力を絶えず行っていくことが大切です。

関連資料

[記載例]

年 月 日

四街道市長 ○○ ○○ 様

職名（代表、実行委員長等）も記載
例年、代表者の職名の記入漏れが多いため注意してください

名 称

提案団体 所在地

代表者 代表 ○○ ○○

事業名だけで事業内容、目的が伝わる名称に

みんなで地域づくり事業提案書

事業の概要を 100 字程度で記載

四街道市みんなで地域づくり事業提案制度実施要綱第 7 条の規定により、次のとおり提案します。

①・2・3 年度目

事業名	……でイキイキ……活性化事業			
事業概要	……を対象に……を実施して、……広く……するための事業をするもの			
事業分野		保健・医療・福祉	○	社会教育
		まちづくり		観光
		農村等振興		文化・芸術・スポーツ
		環境		災害救援
		地域安全		人権擁護・平和
		国際協力		男女共同参画
	◎	子どもの健全育成		情報化社会
		科学技術		経済活動
		職業能力開発・雇用機会拡充		消費者保護
	市民活動支援		その他()	
事業部門		地域づくり部門	○	若者チャレンジ部門
市の担当課	○○○課 △△△課			
添付書類	(1) みんなで地域づくり事業計画書(様式第 2 号) (2) みんなで地域づくり事業収支予算書(様式第 3 号) (3) 提案団体概要書(様式第 4 号) 連携や協力を得たい市の担当課を記載 (4) 団体の規約、会則等の写し (5) 団体の構成員の名簿 (6) 団体の活動内容がわかるもの(パンフレット等) (7) その他()			

備考

- 「事業概要」は、簡潔に記載してください。
- 「事業分野」は、該当する分野に○印を付けるものとし、該当する分野が複数ある場合には、主なものに◎印を付け、その他のものに○印を付けてください。
- 「事業部門」は、いずれかの部門に○印を付けてください。

[記載例]

みんなで地域づくり事業計画書

事業名	事業を行うきっかけや課題認識、背景を記載 またどのように市民の役に立つか、どのような地域を目指すかを記載	
目的・必要性	以前より、西街道市では……という課題があり、……で対応している現状がありました。 そのような中で……を実施することで……の充実が図れ、市民にとって……な地域となります。 当団体がこれまで実施してきた……のノウハウを生かし、……することでこのような地域とすることが本事業における目的です。	
内容	1. ……の開催 [内容]……を対象に、……を講師に……を開催 [会場]……公民館 2. ……の実施 [内容]……を対象に、……を制作する……を実施 [会場]……センター	
スケジュール	時期	具体的な取組
	5月	広報活動（チラシ・ポスター配布）、参加者募集
	7月	リハーサル
	8月	イベント、講座などの本番の日程だけでなく、主要な事前準備や広報のタイミングなど事業全体の流れがわかるよう記載
担当課	(担当課) ○○○課、△△△課	
	(役割) [○○○課] ……指導員の紹介 [△△△課] ……に関するアドバイス 市政だよりへのイベント情報掲載	
他団体との連携	……大学（講師の紹介） NPO 法人……（技術的支援） ……の会（広報協力）	
期待される成果	(1) ……の開催により多くの……に関心のある市民が集まることで、……意識を向上させるとともに、……他地域へ広がっていくことが期待できる 参加者数：○○人 (2) ……の実施により得られたアンケート結果を踏まえて、……をまとめ、今後の……活動に活かしていくことが期待できる アンケートサンプル数：○○件	
事業を実施することで得られる市民（地域）への効果や波及効果などについて数値を交えて記載		

[記載例]

みんなで地域づくり事業収支予算書

事業名	〇〇〇事業
-----	-------

【収入】

対象経費（B）の補助割合（対象部門毎の上限）
以内で千円未満切り捨てになっているか確認

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
市補助金	300,000	
自己資金	55,000	会費 30,000円 講座参加費 25,000円
寄付金	20,000	一口 5,000円×4件
		事業に関する収入を漏れなく記載
収入合計	375,000	A(=D)

【支出】

(単位：円)

項目	予算額	具体的な内容・積算
対象経費	報償費	80,000 講師謝礼金 50,000円 有償ボランティア費 30,000円 (1,000円×10人×3回)
	消耗品費	45,000 コピー用紙 10,000円 (1,000円×10個) 文具類 (筆記用具、マジック等) 15,000円 インク 20,000円 (4,000円×5個)
	印刷製本費	80,000 イベントチラシ 50,000円 (50円×10,000枚) 講座チラシ 30,000円 (50円×6,000枚)
	通信運搬費	40,000 イベントチラシ郵送代 40,000円 (80円×5,000円)
	使用料及び賃借料	90,000 イベント会場使用料 60,000円 (30,000円×2日) テント賃借料 30,000円 (15,000円×2日)
小計	335,000	B 積算根拠 (単価、数量) を記載
対象外経費	報償費	10,000 イベント協力者菓子折り
	食糧費	20,000 イベント打合せ食糧費
	通信運搬費	10,000 団体電話使用料
	小計	40,000
支出合計	375,000	D(B+C)

備考

- 見積書等、積算の根拠となる書類がある場合は、当該書類を添付してください。
- 提案時における事業費及び市補助金額は、担当課との意見交換等を経て変更される場合があります。

[記載例]

提案団体概要書

団 体 名			
所 在 地 等	(〒 ー)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 事務所がある場合は所在地、 個人宅の場合は住所を記載 </div>	
	電 話		
	ファクシミリ		
	電 子 メール	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> HP や Facebook などがある場合は記載 </div>	
	ホ ー ム ペ ー ジ		
代 表 者	役 職		
	ふ り が な 氏 名		
	住 所	(〒 ー)	
連 絡 責 任 者	ふ り が な 氏 名	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 郵送の送付先、連絡窓口の責任者を記載 (代表者の場合は「同上」と記載) </div>	
	住 所	(〒 ー)	
	電 話		
	電 子 メール		
設 立 年	年	会 費	円
構 成 員 数	人(うち四街道市民 人)		
主 な 活 動 地 域	(市内)		
	(市外)		
活 動 目 的	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 団体の活動(事業)目的を記載 (本制度活用のために立ち上げた場合は、その目的を記載) </div>		
主 な 活 動 実 績	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 設立から現在までの団体の主な活動実績について記載 (当市の補助金、助成金等の交付実績等を含む) </div>		
そ の 他	(PR等)	<div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> 団体活動の補足事項、PR事項などあれば記載 </div>	

□事業分野一覧

1	保健・医療・福祉の増進	2	社会教育の推進
高齢者支援、障害者支援、生活支援、点字・手話教育活動、公衆衛生の啓発、薬品の情報提供		生涯学習活動、読み書き教室、不登校児や引きこもり青少年の学びの場を提供する活動	
3	まちづくりの推進	4	観光の振興
まちおこし、地域活性化、地域コミュニティの活性化、地域情報誌の発行、バリアフリーの推進		地域ブランドづくり、観光商品開発	
5	農村等の振興	6	学術・文化・芸術・スポーツの振興
過疎防止活動、就農支援、地産地消		伝統文化の振興・継承、芸術家への支援、演劇鑑賞会、地域楽団、地域劇団、スポーツ大会やスポーツ教室	
7	環境の保全	8	災害救援活動
野生動物や野鳥の保護、森林保全、環境セミナーなど自然・環境教育活動、公害防止活動、ペット保護		災害の救援活動、被災者の生活支援、救援ネットワークづくり、災害予防の普及活動	
9	地域安全活動	10	人権擁護・平和の推進
防犯パトロール、犯罪・事故の予防、交通安全活動、交通マナー向上活動、登下校時の見守り活動		外国人、障害者、女性、子どもなどの人権啓発、核兵器廃絶などの平和推進活動、いじめ防止活動	
11	国際協力活動	12	男女共同参画の促進
留学生の支援活動、帰国者の援助、国際交流活動、海外との文化交流		女性の自立支援、セクハラ防止活動、雇用の充実を図る活動、女性が安心して働ける環境整備を促す活動	
13	子どもの健全育成	14	情報化社会の発展
子育て支援、子ども会活動、児童保育、学童保育、非行防止活動、いじめ相談、児童相談		パソコン教室などインターネットを利用した学習システムの普及活動、情報通信ネットワークづくり	
15	科学技術の振興	16	経済活動の活性化
科学技術とまちづくりなどの異分野をつなぐ活動、科学教育教室など科学や技術への関心を高める活動		地域産業の振興など、地域経済活性化の促進を図る活動、起業支援、コミュニティビジネス支援	
17	職業能力開発・雇用機会の拡充	18	消費者保護活動
就労情報の提供・就労支援、雇用創出を図る活動、高齢者への雇用支援、障害者への職業訓練活動		商品知識の普及を図る活動、詐欺被害にあわないための消費者教育活動、消費者相談	
19	市民活動支援	20	その他
上記の活動を行う団体に対する助言や支援、団体間の連絡・交流を図る活動、中間支援活動		その他、地域づくりに関する活動	

[Q & A]

Q 構成員は市内在住でなければいけませんか。

A 構成員は市外在住でも構いませんが、団体の主な活動場所が市内であることが必要です。また、本制度に申請する事業に関しては市内で実施する必要があります。団体が、本制度を活用した事業とは別の事業において市外での活動を行うことは問題ありません。

Q 若者チャレンジ部門と地域づくり部門の2部門でそれぞれ事業を提案することは可能ですか。

A 若者チャレンジ部門と地域づくり部門は同時に提案することはできません。

Q 担当課は必ず設定しなければいけませんか。

A 必須ではありませんが、連携できる担当課があれば設定してください。

Q 国、県及びそれらの外郭団体等から助成を受けている事業は本制度の対象にならないというのですが、既に助成を受けている団体で、現在助成を受けている事業とは異なる事業での申請は可能ですか。

A 団体として他の制度で助成を受けていたとしても、本制度に申請する事業と異なっていれば本制度の対象となります。市の他の制度で助成を受けている場合も同様です。不安のある場合は、ご相談ください。

Q 過去に事業を採択されたことのある団体が、別の事業で新たに申請することは可能ですか。

A 過去に採択された事業と異なる地域課題解決のための事業である場合には、新規事業として申請することが可能です。不安のある場合は、ご相談ください。

Q 複数年度に渡る事業で補助金を申請したい場合は、年度ごとに申請する必要がありますか。

A 同じ事業では、最大で3年度採択されるまで申請が可能ですが、申請の手続き、審査、補助金の交付は年度ごとに行います。また、過去に採択されたことのある事業でも、次の年度の申請時に必ずしも採択になるとは限りません。事業の実績等を踏まえ、課題、問題点を検証し、改めて計画をつくり、次年度以降の提案につなげてください。

Q 1年度目、もしくは2年度目まで事業が採択され、本制度を活用して活動を行った後、数年後に同様の事業を再度提案することは可能ですか。

A 可能です。以前提案したものと同様の事業内容である場合は、年度が引き継がれ、補助金額は次の年度のもので適用されます。例えば、1年度のみ本制度の補助金を活用しての活動を行い、数年間自主財源で活動を行った後に同様の事業で申請を行う場合は、補助金の上限額は2年度目のものが適用されます。

コラボ四街道ガイドブック 2025

四街道市地域共創部みんなで課

地域づくり係

TEL 043-379-7553 / FAX 043-424-8920